

科目	論理国語	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年 一般コース 1～4組
使用教材	『精選論理国語』 「精選論理国語 学習課題ノート 小説三選」 「精選論理国語 学習課題集」「カラー版 新国語便覧」						

目 標	①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ②主体的に学習する態度を土台として、国語の基礎力である知識・技能を活用して情報を精査・解釈する力を身に付ける。 ③国語を的確に理解し、適切に表現する力の土台として、ものの見方・感じ方・自分の考えの形成に役立てる態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準 	ステップ 3 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握することができ、内容を、文章の構成や展開を工夫し、十分な理解を与える記述や説明ができています。情報を相互に関係づけながら書き手の意図まで解釈し、構成や論理展開を評価することができています。また、作品世界を通して自身の知識や経験と関連付けながら、考えを形成することができています。	個別の方法をどのように一般化しているかを進んで捉え、学習課題に沿って説明しようとしている。筆者の提言に対する自己の意見を積極的に考え、表現の仕方を工夫して書こうとしている。
	ステップ 2 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続について、指示された言葉の意味と働きを理解している。	内容や構成、論理の展開を一応捉え、要旨を把握することができ、文章の構成や展開、表現の仕方を理解して、自分の考えをまとめることができています。情報を相互に関係づけ、内容を理解することができています。	個別の情報をどのように一般化しているかを進んで捉えようとしている。また、筆者の提言に対する自己の意見を書こうとしている。
	ステップ 1 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続について、指示された言葉の意味と働きを理解していない。	内容や構成、論理の展開を捉えることができておらず十分な説明ができていない。また、得られた情報が自身の知識や体験とは結びつかず、自身の考えを深めることができていない。	個別の情報をどのように一般化しているかを捉えようとしていない。筆者の提言の理解、自分の考えの表明に不十分な点がある。
評価方法	定期試験、授業時の観察、課題テスト、小テスト	定期試験、授業時の観察、作文や小論文、発表、話し合い、課題テスト、小テスト	授業に取り組む姿勢や意欲、課題等の取り組み、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

説明によって得た知識や考え方をともに、自身でしっかりと考えて論理を組み立てます。話すこと・書くことをはじめとしてさまざまな手法で発表を行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒の皆さんと積極的に意見を交わしてください。また、単元で学習したテーマを他の文章や身近な例を用いて考えます。

担当者より

・「授業」に全力になってください。授業中の問いかけは、全て自分自身に対するものだと思え、ひたむきに考えましょう。
 ・「論理」国語です。それぞれの話題がどのようにつながっているかを読み取り、また発表の際も論理を意識しましょう。
 ・「ノート」は自分や仲間、クラスの思考の過程を記録する大切な道具です。先生や仲間の発言・気づきで大切だと思ったことを記録したり、自分が知らなかった言葉の意味をまとめたりして、自分だけのノートを作りましょう。
 ・「読書」は現代文の力を伸ばす方法の1つです。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	いつもそばには本があった 国分功一郎	5	- 本文の話題に関心を持ち、筆者の考えを大まかに理解する。 - 具体と抽象の関係、対比の関係、原因と結果の関係を理解し、論理的な文章の読み方を習得する。 - 論理の展開と文章の構成をつかみ、論旨を正確に把握する。 - 読書の意義について筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	
5	論理とはなにかⅠ つなげる力・論証する力	3	- 書かれている内容を理解し、「論理的」とはどういうことを学ぶ。 「接統関係」について学び、文章を論理的に理解する力を養う。 - 論証の適切さを判断する方法を学び、説得力のある論証や反論を行う力を養う。	
	<前期中間試験Ⅰ>	1		
6	山月記 中島敦	7	- 背景→内面→言動の連鎖関係を理解し、小説の読み方を習得する。 - 作者について知り、生涯にわたって文学に親しむために必要な教養としての文学史的知識を習得する。 - 舞台や主人公の境遇、人物像を把握し、読みとりに活かす。 - 特徴的な表現とその効果を理解することで、読みとりを深める。 - 心情の変化をとらえることで、主題についての考えを深める。 - 小説を読んで考えたことを文章にまとめる。	
	<前期中間試験Ⅱ>	1		
7・8	論理とはなにかⅡ 要約する力・質問する力	2	- 書かれている内容を理解し、「論理的」とはどういうことを学ぶ。 - 文章の構造を理解し、適切に要約する力を養う。 - 質問の意義や種類を学び、よい質問をする力を養う。	
	小論文	3	- 原稿用紙の使い方や言葉の使い方を学び、自分が文章を書く際に生かせるようにする。 - 指定された文章を要約することができる(書く)。 - 意見文の書き方を理解し、実践する(書く)。 - 書いた文章を進んで批評し、批評を踏まえて、文章の構成・展開や表現を工夫する(話す)。	
9	相手依存の自己規定 鈴木孝夫	6	- 本文の話題に関心を持ち、筆者の考えを大まかに理解する。 - 具体と抽象の関係、対比の関係、原因と結果の関係を理解し、論理的な文章の読み方を習得する。 - 論理の展開と文章の構成をつかみ、論旨を正確に把握する。 - 言語と社会についての筆者の考えにふれ、生涯にわたってものの見方・感じ方・考え方を豊かにしていく態度を養う。	
	<前期期末試験>	1		
10	メディアの変容 土井隆義	7	- 現代の人間関係の在り方を論じた評論を読み、自分の考えを深める。 - 挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。 - 情報、意味、論証を区別しながら読解する力を養う。 - 複数の文章を比較検討する場合の読み方を習得する。	
11		1		
12	こころ 夏目漱石	10	- 背景→内面→言動の連鎖関係を理解し、小説の読み方を習得する。 - 作者について知り、生涯にわたって文学に親しむために必要な教養としての文学史的知識を習得する。 - 舞台や主人公の境遇、人物像を把握し、読みとりに活かす。 - 特徴的な表現とその効果を理解することで、読みとりを深める。 - 心情の変化をとらえることで、主題についての考えを深める。 - 小説を読んで考えたことを文章にまとめる。	
	平和学習(修学旅行前)			
2・3	『である』ことと『する』こと 丸山真男	8	- 社会と人間の在り方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 - 例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。	
合計時数		55		

科目	論理国語	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年 探究コース 5組
使用教材	『精選論理国語』 「精選論理国語 学習課題ノート 小説三選」 「精選論理国語 学習課題集」「カラー版 新国語便覧」						

目 標	①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ②主体的に学習する態度を土台として、国語の基礎力である知識・技能を活用して情報を精査・解釈する力を身に付ける。 ③国語を的確に理解し、適切に表現する力の土台として、ものの見方・感じ方・自分の考えの形成に役立てる態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
↑ 評価標準	ステップ3 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握することができ、内容を、文章の構成や展開を工夫し、十分な理解を与える記述や説明ができています。情報を相互に関係づけながら書き手の意図まで解釈し、構成や論理展開を評価することができています。また、作品世界を通して自身の知識や経験と関連付けながら、考えを形成することができています。	個別の方法をどのように一般化しているかを進んで捉え、学習課題に沿って説明しようとしている。筆者の提言に対する自己の意見を積極的に考え、表現の仕方を工夫して書こうとしている。
	ステップ2 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続について、指示された言葉の意味と働きを理解している。	内容や構成、論理の展開を一応捉え、要旨を把握することができ、文章の構成や展開、表現の仕方を理解して、自分の考えをまとめることができています。情報を相互に関係づけ、内容を理解することができています。	個別の情報をどのように一般化しているかを進んで捉えようとしている。また、筆者の提言に対する自己の意見を書こうとしている。
	ステップ1 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続について、指示された言葉の意味と働きを理解していない。	内容や構成、論理の展開を捉えることができておらず十分な説明ができていない。また、得られた情報が自身の知識や体験とは結びつかず、自身の考えを深めることができていない。	個別の情報をどのように一般化しているかを捉えようとしていない。筆者の提言の理解、自分の考えの表明に不十分な点がある。
評価方法	定期試験、授業時の観察、課題テスト、小テスト	定期試験、授業時の観察、作文や小論文、発表、話し合い、課題テスト、小テスト	授業に取り組む姿勢や意欲、課題等の取り組み、自己評価シート

※この評価標準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

説明によって得た知識や考え方をもとに、自身でしっかりと考えて論理を組み立てます。話すこと・書くことをはじめとしてさまざまな手法で発表を行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒の皆さんと積極的に意見を交わしてください。また、単元で学習したテーマを他の文章や身近な例を用いて考えます。

担当者より

・「授業」に全力になってください。授業中の問いかけは、全て自分自身に対するものだと思え、受け止め、ひたむきに考えましょう。
・「論理」国語です。それぞれの話題がどのようにつながっているかを読み取り、また発表の際も論理を意識しましょう。
・「ノート」は自分や仲間、クラスの思考の過程を記録する大切な道具です。先生や仲間の発言・気づきで大切だと思ったことを記録したり、自分が知らなかった言葉の意味をまとめたりして、自分だけのノートを作りましょう。
・「読書」は現代文の力を伸ばす方法の1つです。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	いつもそばには本があった 国分功一郎	5	- 本文の話題に関心を持ち、筆者の考えを大まかに理解する。 - 具体と抽象の関係、対比の関係、原因と結果の関係を理解し、論理的な文章の読み方を習得する。 - 論理の展開と文章の構成をつかみ、論旨を正確に把握する。 - 読書の意義について筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	
5	論理とはなにかⅠ つなげる力・論証する力	3	- 書かれている内容を理解し、「論理的」とはどういうことを学ぶ。 「接統関係」について学び、文章を論理的に理解する力を養う。 - 論証の適切さを判断する方法を学び、説得力のある論証や反論を行う力を養う。	
	<前期中間試験Ⅰ>	1		
6	山月記 中島敦	7	- 背景→内面→言動の連鎖関係を理解し、小説の読み方を習得する。 - 作者について知り、生涯にわたって文学に親しむために必要な教養としての文学史的知識を習得する。 - 舞台や主人公の境遇、人物像を把握し、読みとりに活かす。 - 特徴的な表現とその効果を理解することで、読みとりを深める。 - 心情の変化をとらえることで、主題についての考えを深める。 - 小説を読んで考えたことを文章にまとめる。	
	<前期中間試験Ⅱ>	1		
7・8	論理とはなにかⅡ 要約する力・質問する力	2	- 書かれている内容を理解し、「論理的」とはどういうことを学ぶ。 - 文章の構造を理解し、適切に要約する力を養う。 - 質問の意義や種類を学び、よい質問をする力を養う。	
	小論文	3	- 原稿用紙の使い方や言葉の使い方を学び、自分が文章を書く際に生かせるようにする。 - 指定された文章を要約することができる(書く)。 - 意見文の書き方を理解し、実践する(書く)。 - 書いた文章を進んで批評し、批評を踏まえて、文章の構成・展開や表現を工夫する(話す)。	
9	相手依存の自己規定 鈴木孝夫	6	- 本文の話題に関心を持ち、筆者の考えを大まかに理解する。 - 具体と抽象の関係、対比の関係、原因と結果の関係を理解し、論理的な文章の読み方を習得する。 - 論理の展開と文章の構成をつかみ、論旨を正確に把握する。 - 言語と社会についての筆者の考えにふれ、生涯にわたってものの見方・感じ方・考え方を豊かにしていく態度を養う。	
	<前期期末試験>	1		
10	メディアの変容 土井隆義	7	- 現代の人間関係の在り方を論じた評論を読み、自分の考えを深める。 - 挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。 - 情報、意味、論証を区別しながら読解する力を養う。 - 複数の文章を比較検討する場合の読み方を習得する。	
11		1		
12	こころ 夏目漱石 平和学習(修学旅行前)	10	- 背景→内面→言動の連鎖関係を理解し、小説の読み方を習得する。 - 作者について知り、生涯にわたって文学に親しむために必要な教養としての文学史的知識を習得する。 - 舞台や主人公の境遇、人物像を把握し、読みとりに活かす。 - 特徴的な表現とその効果を理解することで、読みとりを深める。 - 心情の変化をとらえることで、主題についての考えを深める。 - 小説を読んで考えたことを文章にまとめる。 - 戦争と平和について考えを深める。	
1				
2・3	『である』ことと『する』こと 丸山真男	8	- 社会と人間の在り方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 - 例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。	
合計時数		55		

No.

2023 年度 国語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	文学国語	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年 普通コース 3～4組
使用教材	『文学国語』『国語辞典』 『古典探究』『体系古典文法』『古語辞典』						
目 標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや 考えを広げたり深めたりすることができる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ステップ3 ○作品の構成や展開、擬人法や比喻といった表現の特徴について理解を深め、その効果を本文に即して的確に説明している。	○作品の構成や展開を理解し、各登場人物の置かれた状況や心情の変化について、本文に即して的確にとらえている。 ○小説における語り手の役割や視点人物について理解を深め、人物がどのように描写されているかを考察している。 ○資料や調べたことなどを作品と関連づけ、本と人間との関係について考察を深めている。	○登場人物の描かれ方に着目しながら小説を読むことをとおして、本と人間との関わりについて考えたり、多様なジャンルの読書に対する意欲をもとうとしたりしている。
	ステップ2 ○作品の構成や展開、擬人法や比喻などの表現の特徴についておおむね理解し、その効果を本文に即して考察している。	○作品の構成や展開をつかみ、各登場人物の置かれた状況や心情の変化を本文に沿って考察している。 ○小説における語り手の役割や視点人物について理解し、本文における人物の描写や視点変化をとらえている。 ○資料や調べたことなどを参考に、作品における本のもつ意味について理解している。	○登場人物の変化を読み取るとともに、本と人間との関わりについて、これまでの読書体験などもふまえて、自分なりに考えを深めようとしている。
	ステップ1 ○作品の構成や表現の特徴について、本文に即して確認していない。	○作品の構成や各登場人物の情報について、本文に即して理解できない。 ○小説における語り手や視点人物について理解できない。 ○資料の内容や調べたことを整理し、作品との関わりを考えることができない。	○登場人物の描写を本文に即して確認し、本と人間との関わりについて考えるよう促す。
評価方法	定期試験、授業時の観察 課題テスト、小テスト	定期試験、授業時の観察 課題テスト、小テスト	授業に取り組む姿勢や意欲 授業時の内容をまとめたノート 課題等の取り組み

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、個人・集団での発表、話し合いなどを行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒と積極的に話し合いを行ってください。

担当者より

- ・自分で本文の言葉や文章を手掛かりとして、物語を読み解いていくことを重視してください。
- ・あくまでも「自分で考えること」を大事にすること。黒板の内容を写しているだけでは、国語の学習とは言えません。
- ・描かれている文章を「楽しむ」こと。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	ガイダンス	1	・今年度の授業の進め方を確認する。	
	随想・評論(1) 「十八歳の選択」 朝井リョウ	5	・自然や身近なできごとを描いた文章に触れ、文学に親しむ。 ・想像したり共感したりしながら、自分自身の生き方を見つめる。	
5	古文:土佐日記「門出」 ※1年次『言語文化』の教科書	5	・我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 ・女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている批評や諧謔の精神と、亡児追憶の心情を捉え、内容を解釈する。	
	《前期中間考査Ⅰ》	0	実施しません。	
6	古文:奥の細道「旅立ち」 ※1年次『言語文化』の教科書	6	・俳諧紀行文における散文と句の関係を理解し、作品に表れた作者の思慕や心情を捉える。 ・句に感動の中心がある俳諧紀行文という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている作者の人生観や旅の意味と言った、ものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	
	《前期中間考査Ⅱ》	0	実施しません。	
7・8	古文:伊勢物語「初冠」「ついに行 く道」	5 (5)	・物語を読んで、登場人物の行動や心理を的確に捉える。また、歌物語における和歌の役割を知って、平安時代の文学への関心を高める。	
	詩・短歌・俳句 「永訣の朝」	4	・詩、短歌、俳句の形式やリズムを味わう。 ・韻文の表現や効果について理解を深める。	
9	小説③「山椒魚」	4	・構成や表現効果に着目する。 ・寓意的な表現の意味を考える。	
	《前期期末考査》	1		
10	古文:大和物語「姨捨」 更級日記「門出」「物語」	8	・物語を読んで、登場人物の行動や心理を的確に捉える。また、歌物語における和歌の役割を知って、平安時代の文学への関心を高める。 ・日記を読んで、登場人物の行動や心理を的確に捉える。また、回想日記の特質を知って、平安時代の文学への関心を高める。	
11	古文:枕草子「うつくしきもの」	4	・随筆を読んで、自然、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。また、「枕草子」の随想的章段・類聚的章段・日記的章段におけるそれぞれの特色を理解する。	
	《後期中間考査》	0	実施しません。	
12	古文:大鏡「三船の才」	6	・歴史物語を読んで、登場人物の行動や心理を、話の展開に即して読み取る。	
1	和歌と俳句	4	・和歌を読んで、それぞれの作品に表れたものの見方や感じ方を理解する。また、和歌の表現の特色と技法について確認する。 ・俳諧を読んで、それぞれの作品に表れたものの見方や感じ方を理解する。また、発句・連句の表現の特色と技法について確認する。	
2・3	和歌と俳句	6		
	《後期期末考査》	1		
合計時数		54		0

No.

2023 年度 国語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	文学国語	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年 探究コース 5組
使用教材	『文学国語』『国語辞典』 『古典探究』『体系古典文法』『古語辞典』						
目 標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや 考えを広げたり深めたりすることができる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 	ステップ 3 ○作品の構成や展開、擬人法や比喻といった表現の特徴について理解を深め、その効果を本文に即して的確に説明している。	○作品の構成や展開を理解し、各登場人物の置かれた状況や心情の変化について、本文に即して的確にとらえている。 ○小説における語り手の役割や視点人物について理解を深め、人物がどのように描写されているかを考察している。 ○資料や調べたことなどを作品と関連づけ、本と人間との関係について考察を深めている。	○登場人物の描かれ方に着目しながら小説を読むことをとおして、本と人間との関わりについて考えたり、多様なジャンルの読書に対する意欲をもとうとしたりしている。
	ステップ 2 ○作品の構成や展開、擬人法や比喻などの表現の特徴についておおむね理解し、その効果を本文に即して考察している。	○作品の構成や展開をつかみ、各登場人物の置かれた状況や心情の変化を本文に沿って考察している。 ○小説における語り手の役割や視点人物について理解し、本文における人物の描写や視点変化をとらえている。 ○資料や調べたことなどを参考に、作品における本のもつ意味について理解している。	○登場人物の変化を読み取るとともに、本と人間との関わりについて、これまでの読書体験などもふまえて、自分なりに考えを深めようとしている。
	ステップ 1 ○作品の構成や表現の特徴について、本文に即して確認していない。	○作品の構成や各登場人物の情報について、本文に即して理解できない。 ○小説における語り手や視点人物について理解できない。 ○資料の内容や調べたことを整理し、作品との関わりを考えることができない。	○登場人物の描写を本文に即して確認し、本と人間との関わりについて考えるよう促す。
評価方法	定期試験、授業時の観察 課題テスト、小テスト	定期試験、授業時の観察 課題テスト、小テスト	授業に取り組む姿勢や意欲 授業時の内容をまとめたノート 課題等の取り組み

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、個人・集団での発表、話し合いなどを行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒と積極的に話し合いを行ってください。

担当者より

- ・自分で本文の言葉や文章を手掛かりとして、物語を読み解いていくことを重視してください。
- ・あくまでも「自分で考えること」を大事にすること。黒板の内容を写しているだけでは、国語の学習とは言えません。
- ・描かれている文章を「楽しむ」こと。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	ガイダンス	1	・今年度の授業の進め方を確認する。	
	随想・評論(1) 「十八歳の選択」 朝井リョウ	5	・自然や身近なできごとを描いた文章に触れ、文学に親しむ。 ・想像したり共感したりしながら、自分自身の生き方を見つめる。	
5	古文：土佐日記「門出」 ※1年次『言語文化』の教科書	5	・我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 ・女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている批評や諧謔の精神と、亡児追憶の心情を捉え、内容を解釈する。	
	《前期中間考査Ⅰ》	0	実施しません。	
6	古文：奥の細道「旅立ち」 ※1年次『言語文化』の教科書	6	・俳諧紀行文における散文と句の関係を理解し、作品に表れた作者の思想や心情を捉える。 ・句に感動の中心がある俳諧紀行文という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている作者の人生観や旅の意味と言った、ものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	
	《前期中間考査Ⅱ》	0	実施しません。	
7・8	古文：伊勢物語「初冠」「ついに行く道」	5 (5)	・物語を読んで、登場人物の行動や心理を的確に捉える。また、歌物語における和歌の役割を知って、平安時代の文学への関心を高める。	
	詩・短歌・俳句 「永訣の朝」	4	・詩、短歌、俳句の形式やリズムを味わう。 ・韻文の表現や効果について理解を深める。	
9	小説③「山椒魚」	4	・構成や表現効果に着目する。 ・寓意的な表現の意味を考える。	
	《前期期末考査》	1		
10	古文：大和物語「姨捨」 更級日記「門出」「物語」	8	・物語を読んで、登場人物の行動や心理を的確に捉える。また、歌物語における和歌の役割を知って、平安時代の文学への関心を高める。 ・日記を読んで、登場人物の行動や心理を的確に捉える。また、回想日記の特質を知って、平安時代の文学への関心を高める。	
11	古文：枕草子「うつくしきもの」	4	・随筆を読んで、自然、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。また、「枕草子」の随想的章段・類聚的章段・日記的章段におけるそれぞれの特色を理解する。	
	《後期中間考査》	0	実施しません。	
12	古文：大鏡「三船の才」	6	・歴史物語を読んで、登場人物の行動や心理を、話の展開に即して読み取る。	
1	和歌と俳句	4	・和歌を読んで、それぞれの作品に表れたものの見方や感じ方を理解する。また、和歌の表現の特色と技法について確認する。 ・俳諧を読んで、それぞれの作品に表れたものの見方や感じ方を理解する。また、発句・連句の表現の特色と技法について確認する。	
2・3	和歌と俳句	6		
	《後期期末考査》	1		
合計時数		54		0

No.

2023 年度 国語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	古典探究	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年 一般コース 1～4組
使用教材	『探求 古典探究 古文編』『探求 古典探究 漢文編』 漢和辞典「体系古典文法 九訂版」「漢文必携」 「新国語便覧」「予習復習ノート」「古文単語315」						
目 標	(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 ↑ ステップ3 ステップ2 ステップ1	・本文に用いられている語句の意味や用法について、辞書や参考文献を積極的に参照しながら理解している。 ・本文を読むために必要な文語のきまりについて理解を深め、その知識を活用している	・説話や物語、和歌といった文章の種類を踏まえ、その特徴を理解しながら、構成や展開などを的確に捉えている。 ・内容の解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしたうえで、それを的確にまとめている。	・学習した古文や漢文についての文化のあり方について話し合い、自分の考えを深めるとともに、話し合いを経て考えたことを的確にまとめようとしている。
	・本文に用いられている語句の意味や用法を正しく理解している。 ・本文を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	・説話や物語、和歌といった種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・内容の解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている	・学習した古文や漢文についての文化のあり方について話し合い、自分の考えを深めようとしている
	・本文に用いられている語句の意味や用法について十分に理解していない。 ・本文を読むために必要な文語のきまりについて十分に理解していない。	・本文の構成や展開などを十分に捉えていない。 ・説話や物語、和歌についての自分の考えを十分に表していない。	・学習した古文や漢文についての文化のあり方について、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりしようとしていない。
評価方法	定期試験、授業時の観察、漢文音読課題テスト、小テスト	定期試験、授業時の観察課題テスト、小テスト	授業に取り組む姿勢や意欲 授業時の内容をまとめたノート 漢文音読課題等の取り組み

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、個人・集団での発表、話し合いなどを行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒と積極的に話し合いを行ってください。また、「漢文音読」を適宜行います。こちらも評価に入りますので、指定された時期に行ってください。

担当者より

・古典は「予習」が勝負です。自分で分かったところと分からないところを「分ける」ことが「予習＝学習」です。自分の身になるように学習してください。
・「ノート」は自分や仲間、クラスの思考の過程を記録する大切な道具です。板書を書き写すだけでは意味がありません。先生や仲間の発言や気づきで大切だと思ったことを記録したり、自分が知らなかった言葉の意味をまとめたりして、自分だけのノートを作っていきましょう。それによって、ノートの評価点をつけていきます。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	ガイダンス	1	・今年度の授業の流れ、評価のポイントの確認。また、ノートの取り方を確認する。	
	漢文：唐詩の世界「春暁・江雪・黄鶴楼・元二・春望」 * 昨年度『言語文化』の教科書を使用	5	・さまざまなスタイルの漢詩を読んで、それぞれの詩に表現された心情や情景を的確に捉える。	
5	古文：宇治拾遺物語「歌を読みて罪を許さること」	5	・比較的平易な説話を読んで、話のおもしろさを理解する。また、話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心理を捉える。	
	＜前期中間試験Ⅰ＞	1	漢文音読①	
6	古文：方丈記「行く川の流れ」 徒然草「家居のつきつきしく」 ※3段落まで	6	・随筆を読んで、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。また、文章に描かれている観念性・抽象性の高い内容を、構成や展開に即して的確に捉える。	
	＜前期中間試験Ⅱ＞	1	漢文音読②	
7・8	古文：敬語の学習 古文：枕草子「中納言参り給ひて」 「雪のいと高う降りたるを」 ※夏季特別時間割	5 (5)	・随筆を読んで、自然、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。また、「枕草子」の随想的章段・類聚的章段・日記的章段におけるそれぞれの特色を理解する。 漢文音読③	
	漢文：故事・寓話 「画堂点晴」 「漱石枕流」	4	・比較的短い文章を読んで話の内容を理解することにより、漢文を読む楽しみを味わう。また、故事や寓話に込められた古代中国人のものの見方・考え方について理解する。	
9	漢文：故事・寓話「先從隋始」	4	漢文音読④	
	＜前期期末試験Ⅱ＞	1		
10	古文：大鏡「花山院の出家」 古文：源氏物語「光源氏の誕	8	・歴史物語を読んで、登場人物の行動や心理を、話の展開に即して読み取る。 ・敬語を復習し、人物関係を押さえる。	
11	古文：源氏物語「光源氏の誕生」	4	・長編物語を読んで、登場人物の行動や心情を的確に読み取る。また、「源氏物語」の内容や構成に関心を持ち、平安時代の物語文学への理解を深める。	
	＜前期中間試験＞	1	漢文音読⑤	
12	漢文：史伝Ⅱ「鴻門の会」	6	・歴史物語を読んで、当時の人物の考え方に触れ、興味・関心を持つ。	
	※冬期特別時間割	(5)	漢文音読⑥	
1	古文：源氏物語「光源氏と藤壺」	4	・長編物語を読んで、登場人物の行動や心情を的確に読み取る。また、「源氏物語」の内容や構成に関心を持ち、平安時代の物語文学への理解を深める。	
2・3	古文：源氏物語「光源氏と藤壺」	6		
	＜後期期末試験＞ ※春期講習	1	漢文音読⑦	
合計時数		57		0

No.

2023 年度 国語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	古典探究	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年 探究コース 5組
使用教材	『探求 古典探究 古文編』『探求 古典探究 漢文編』 漢和辞典「体系古典文法 九訂版」「漢文必携」 「新国語便覧」「予習復習ノート」「古文単語315」						

目 標	(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 ↑ ステップ3 ステップ2 ステップ1	・本文に用いられている語句の意味や用法について、辞書や参考文献を積極的に参照しながら理解している。 ・本文を読むために必要な文語のきまりについて理解を深め、その知識を活用している	・説話や物語、和歌といった文章の種類を踏まえ、その特徴を理解しながら、構成や展開などを的確に捉えている。 ・内容の解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしたうえで、それを的確にまとめている。	・学習した古文や漢文についての文化のあり方について話し合い、自分の考えを深めるとともに、話し合いを経て考えたことを的確にまとめようとしている。
	・本文に用いられている語句の意味や用法を正しく理解している。 ・本文を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	・説話や物語、和歌といった種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・内容の解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている	・学習した古文や漢文についての文化のあり方について話し合い、自分の考えを深めようとしている
	・本文に用いられている語句の意味や用法について十分に理解していない。 ・本文を読むために必要な文語のきまりについて十分に理解していない。	・本文の構成や展開などを十分に捉えていない。 ・説話や物語、和歌についての自分の考えを十分に表していない。	・学習した古文や漢文についての文化のあり方について、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりしようとしていない。
評価方法	定期試験、授業時の観察、漢文音読課題テスト、小テスト	定期試験、授業時の観察課題テスト、小テスト	授業に取り組む姿勢や意欲 授業時の内容をまとめたノート 漢文音読課題等の取り組み

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、個人・集団での発表、話し合いなどを行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒と積極的に話し合いを行ってください。また、「漢文音読」を適宜行います。こちらも評価に入りますので、指定された時期に行ってください。

担当者より

・古典は「予習」が勝負です。自分で分かったところと分からないところを「分ける」ことが「予習＝学習」です。自分の身になるように学習してください。
・「ノート」は自分や仲間、クラスの思考の過程を記録する大切な道具です。板書を書き写すだけでは意味がありません。先生や仲間の発言や気づきで大切だと思ったことを記録したり、自分が知らなかった言葉の意味をまとめたりして、自分だけのノートを作っていきましょう。それによって、ノートの評価点をつけていきます。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	ガイダンス	1	・今年度の授業の流れ、評価のポイントの確認。また、ノートの取り方を確認する。	
	漢文：唐詩の世界「春曉・静夜思・黄鶴樓・春望」 * 昨年度『言語文化』の教科書を使用	5	・さまざまなスタイルの漢詩を読んで、それぞれの詩に表現された心情や情景を的確に捉える。	
5	古文：宇治拾遺物語「歌を読みて罪を許さること」	5	・比較的平易な説話を読んで、話のおもしろさを理解する。また、話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心理を捉える。	
	＜前期中間試験Ⅰ＞	1		
6	古文：方丈記「行く川の流れ」 徒然草「家居のつきつきしく」 ※3段落まで	6	・随筆を読んで、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。また、文章に描かれている観念性・抽象性の高い内容を、構成や展開に即して的確に捉える。	
	＜前期中間試験Ⅱ＞	1		
7・8	古文：敬語の学習 古文：枕草子「中納言参り給ひて」 「雪のいと高う降りたるを」 ※夏季特別時間割	5 (5)	・随筆を読んで、自然、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。また、「枕草子」の随想的章段・類聚的章段・日記的章段におけるそれぞれの特色を理解する。	
	漢文：故事・寓話 「画竜点睛」 「漱石枕流」	4	・比較的短い文章を読んで話の内容を理解することにより、漢文を読む楽しみを味わう。また、故事や寓話に込められた古代中国人のものの見方・考え方について理解する。	
9	漢文：故事・寓話「先從隗始」	4		
	＜前期期末試験Ⅱ＞	1		
10	古文：大鏡「花山院の出家」 古文：源氏物語「光源氏の誕生」	8	・歴史物語を読んで、登場人物の行動や心理を、話の展開に即して読み取る。 ・敬語を復習し、人物関係を押さえる。	
11	古文：源氏物語「光源氏の誕生」	4	・長編物語を読んで、登場人物の行動や心情を的確に読み取る。また、「源氏物語」の内容や構成に関心を持ち、平安時代の物語文学への理解を深める。	
	＜前期中間試験＞	1		
12	漢文：史伝Ⅱ「鴻門の会」	6	・歴史物語読んで、登場人物の行動や心情を理解し、興味関心を持つ。	
	※冬期特別時間割	(5)		
1	古文：源氏物語「光源氏と藤壺」	4	・長編物語を読んで、登場人物の行動や心情を的確に読み取る。また、「源氏物語」の内容や構成に関心を持ち、平安時代の物語文学への理解を深める。	
2・3	古文：源氏物語「光源氏と藤壺」	6		
	＜後期期末試験＞ ※春期講習	1		
合計時数		57		0

No.

科目	地理探究	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年一般・探究文系
使用教材	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院) 最新地理図表GEO(第一学習社)						

目 標	①社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりできる。 ②グローバル化する国際社会に主体的に生きることができる。 ③平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 ◆地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を調べ、まとめる技能を身に付けている。	◆地理的な課題の解決に向けて構想したり、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	◆考察や理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて、自覚している。
	ステップ2 ◆地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解している。	◆地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して考察できる。	◆地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。
	ステップ1 ◆教科書本文に記載されている基本事項・重要事項を理解することができる。 ◆各種作業を通して、意図した内容を丁寧にまとめることができる。	◆授業で学んだ内容をもとに身近なことに付いて考察し、その考えたことを書いたり話したりすることができる。 ◆自らの考えを相手に対して伝えることができる。	◆知識や技能を身に付けるため、さらには思考力・判断力・表現力を醸成するために、学習に対して粘り強く取り組もうとしている。 ◆グループワークにおいて、周囲の生徒と協調的に関わりながら臨もうとしている。また、さまざまな提出物に対して意欲的に取り組もうとしている。
評価方法	ペーパーテスト レポート等作業	ペーパーテスト 口頭試問・発表等	授業に取り組む意欲や態度 各種提出物 自己評価

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

講義形式の授業を基本とします。ただし、単元によりグループワークなどを用いたアクティブラーニング形態の授業を行うことにより、主体的な学びを深める機会も設定していきます。

担当者より

○1年生で学習した内容を復習したうえで、さらに系統的な内容を分野ごとに学んでいきます。各分野を関連付けて学んでいくことがとても大切です。そうすることで地理的な思考力を養成することができます。 ○日頃から世界の様々な事象に目を向け、視野を広げましょう。地理的な知識はもちろんのこと、経済や歴史的背景にも興味関心を持ちましょう。 ○身の回りの生活の中にこそ、地理の学習につながるヒントが隠されています。身近なことに目を向け、多面的なものの見方や考え方を身に付けましょう。 ○地図帳やデータブックには、おもしろい情報がたくさん掲載されています。時間があれば、積極的に目を通してみましょう。
--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
前 期	◆系統地理	(前期中 間Ⅱ)	*1年生で学んだ内容を振り返り、基礎基本の確認を行ったのち系統地理に入ります。	
	○自然環境 地形 気候 日本の自然環境 地球環境問題	19	・大地形、小地形の特色やその成因を理解する。また、人間生活との関わりを理解する。 ・各気候区の特徴と人間生活との関わりを理解する。 ・日本の地形や気候の特徴、自然災害について理解する。 ・さまざまな環境問題を把握し、自然や人間生活への影響を考える。	
後 期	○資源と産業 農林水産業 食料問題 エネルギー・鉱産資源 資源・エネルギー問題 工業 第3次産業	(前期期 末)	・農林水産業それぞれの立地条件とその特色について理解する。 ・食料に関わる世界及び日本の問題点について考察する。 ・各種資源の分布を理解し、その利用について考察する。 ・資源の視点から持続可能な社会を実現するための方策を考える。 ・工業の立地条件、分類とその特徴について理解する。 ・第3次産業の立地と産業構造の高度化が進展していることを理解する。	
	○交通・通信と観光、貿易 交通・通信 観光 貿易と経済圏	(後期中 間)	・交通網、情報通信網の発達とその影響について考察する。 ・観光の多様化や観光産業の変化について理解する。 ・各国の貿易の現状、貿易構造の変化について理解する。	
後 期	○人口、村落・都市 人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題	15	・人口分布、人口構成、人口移動について理解する。 ・出生率と高齢化に関わる人口問題について考察する。 ・村落と都市の成立背景、機能、内部構造について理解する。 ・発展途上国、先進国、日本三大都市圏が抱える都市問題について理解し、その解決策について考察する。	
	○生活文化、民族・宗教 衣食住 民族・宗教と民族問題 国家の領域と領土問題	(後期期 末)	・衣食住の特徴と多様性、地域的差異について理解する。 ・民族や宗教の特徴とその分布、様々な民族問題について理解する。 ・国家の領域と国境、領土をめぐる問題について現状を理解する。	
合計時数		64		

No.

検 印	校 長		教 頭		教 務	
--------	--------	--	--------	--	--------	--

2023 年度 地歴公民 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	日本史探究	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次一般・探究共通(文系)
使用教材	教科書『詳説 日本史探究』(山川出版社) 資料集『図説日本史通覧』(帝国書院)			担当者	原田俊彦		

目 標	① 原始・古代から現代に至る歴史の展開を事実に基づき把握し、地理的条件やアジアを含む世界史的視野に立ち、歴史の構造とその変化の過程を理解します。 ② 歴史的な見方や考え方を身に付け、歴史的な思考力を育成し、国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する国民の自覚と資質を身につけます。 ③ 自らが歴史形成の主体として考え行動する態度を身につけます。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 基本事項・重要語句同士の関連性を理解した上で、他に解りやすく説明することができる。	歴史のタテ軸とヨコ軸を広い視野で考え、それを他に解りやすく説明し、話し合うことができる	自分なりにまとめたものを解りやすく説明・発表し、その中でもらった意見を参考にしてブラッシュアップすることができる。
	ステップ 2 基本事項・重要語句を理解した上で、相互に関連する事項同士を結び付けることができる。	原始から現代までのタテ軸だけでなく、ヨコ軸(特に日本史は京都の歴史に偏りがちなので、その当時の他地域や他国との関係)にも目を向けることができる。	副教材や関連本・インターネットなどから関連する史資料を探し、自分なりにまとめることができる。
	ステップ 1 教科書本文に書かれている基本的事項・重要語句を理解することができる。	授業で説明されている内容の重要性を知り、年代順に伝えることができる。	担当者の指示や問いに対して、素直に考えることができる。
評価方法	授業時の観察 定期試験	授業時の観察 定期試験 課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲 授業ノートの取り組み 自己評価

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

授業プリント等を用いて事前学習に取り組んでから、講義・解説を挟み、グループワーク等によって主体的な学びを目指す授業形態を行います。

担当者より

教科書の本文だけでなく、資料集や関連本、ネットなどで自ら意欲的に興味関心のある分野を調べてみてほしいです。それが課題レポートにつながります。思考をするために、知識と知識をつないでください。何か関連性がないかを探るのです。暗記は最後ですよ。ともに学んでいきましょう。

検 印	校 長		教 頭		教 務	
--------	--------	--	--------	--	--------	--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	第1章 日本文化のあけぼの 1.文化の始まり 2. 農耕社会の成立	6	① 日本列島における旧石器文化・縄文文化の特徴を理解する。 ② 石器や土器、竪穴住居の発掘状況から、教科書の記述が考古学の成果によって成り立っていることに気づく。	
5	第2章 古墳とヤマト政権 1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷	7	① 地域の首長の出現から統一国家の至る過程を、古墳の変容から考える。 ② ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係をふまえて考察する。	
6	第3章 律令国家の形成 1. 律令国家への道 〈前期中間Ⅱ試験〉 2. 平城京の時代	5 1	① 律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ② 律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ③ 律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的に捉えて考察する。 ④ 平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。	
7	3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容 ※木簡から古代国家を探る(史料読解) 第4章 貴族政治の展開 1. 摂関政治	1 1 1 1	① 白鳳文化の形成過程、天平文化における国際性、政治性、国家仏教の展開に着目する。 ② 平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ③ 藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。	
8	2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士	1.5 1.5	① 大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ② 地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にして考察する。	
9	第5章 院政と武士の躍進 1. 院政の始まり 2. 院政と平氏政権 ※絵画から中世社会を探る(史料読解) 〈前期期末試験〉 第6章 武家政権の成立 1. 鎌倉幕府の成立	1 2 1 2	① 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ② 外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ③ 平氏政権の特性について考察する。 ④ 古代から中世への変化について考察する。 ⑤ 鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。	
10	2. 武士の社会 3. モンゴルの襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化	2 2 2	① 武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握する過程を理解する。 ② 蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながったことを理解する。 ③ 庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたこと	
11	第7章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 〈後期中間試験〉	2 2 2 2	① 南北朝動乱から室町幕府の成立と安定について、日本各地の動向を踏まえて考察する。 ② 庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ③ 庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。	
12	4. 戦国大名の登場 第8章 近世の幕開け 1. 織豊政権	3 4	① 応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。 ② 大航海時代という世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ③ 織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について考察する。	
1	2. 桃山文化 ※城郭から見える社会状況(全国の城と山形の城の比較)	2 3	① 新興大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ② 中世城郭から近世城郭への変化、城郭の地域的な特性を、全国と山形の城郭を比較して考察する。	
2	第9章 幕藩体制の成立と展開 1. 幕藩体制の成立(江戸の町ができるまで) 〈後期期末試験〉	4	① 江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。また、中世社会から近世社会への変化を考える。 ② 江戸幕府の貿易統制策について、その歴史的意義を考察する。	
合計時数		60+4		

No.

科目	世界史探究	単位数	3	週時間数	2	年次・コース・組	2年次文系全クラス
使用教材	新世界史(山川出版社) ニューステージ世界史詳覧(浜島書店)						

目 標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を探究する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成することを目指す。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 基本事項・重要語句を用いて、中世までの出来事やその背景を説明することができる。	現代に反映されている事象を考察し、歴史上の出来事が現代社会と将来に結びつけることができる。	「地球市民」の一員としての自覚を持ち、問題解決の一助として、中世までの学びを活用することができる。
	ステップ2 古代・中世の基本事項・重要語句を理解し、関連する事象と結びつけることができる。	各国の通史の考察から東西交流に視点を広げ、共通性を表現することができる。	与えられた授業課題のみならず、家庭学習を通じて自ら疑問に思った課題解決に取り組むことができる。
	ステップ1 教科書本文に記されている基本事項・重要語句を理解することができる。	授業で説明されている内容の重要性を知り、興味関心のある国の通史をまとめることができる。	担当者の指示や講義内容に関心を持ち、グループワークなどに取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察 定期試験	授業時の観察 定期試験 授業ノートの取り組み	授業に取り組む姿勢や意欲 課題への取り組み ルーブリックでの自己評価

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

授業プリント等を用いて事前学習に取り組んだことを前提に、講義・解説を挟み、グループワーク等によって主体的な学びを目指す授業形態となります。

担当者より

世界史を通じて、当時の人々が何を考え、何を求めて生きていたのかを想像し、今を生きる我々との違いに目を向けてみましょう。人の気持ちを汲み取れるかどうか、興味・関心の度合いと理解度の違いを生むことになるでしょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	ガイダンス I 世界史へのまなざし 1章 人類の歴史と私たち	21 (6)	人類の歴史を、地球環境から見つめることや、世界の歴史を日常生活から捉えることで、人類や世界の歴史を身近なものと感じられるようにする。	
5	2章 古代文明の特質	(7)	文明の誕生から、古代オリエント、古代の南アジア・東南アジア・オセアニア・東アジアの特質を比較しながら知識を増やすことを大きな狙いとする。また、同年代のアフリカや南北アメリカの様子にも触れ、地球規模での文明の発露を理解する。	
6	3章 アジア諸地域の国家と社会	(8)	古代中国国家の形成から北方民族との抗争、中華帝国の分裂・融合を経て隋唐帝国に至るまでの通史を理解する。また、国家の形成に関わる周辺のアジア世界についても関連づける。	
7 ・ 8	(前期中間試験) 4章 西アジアの帝国と古代ギリシア	13 (6)	古代西アジアの専制国家と古代ギリシアの民主政の違いに着目し、東西融合の端緒と言えるヘレニズム時代へと発展していく過程を理解する。	
9	5章 古代ローマ	(7)	ローマの発展と帝国形成からローマ帝国の繁栄とキリスト教との関わり、そしてローマ帝国の衰退までを時系列に理解できるようにする。	
10	(前期期末試験) 6章 ヨーロッパの形成とイスラーム教の誕生	12 (6)	中世ヨーロッパの形成に関わるカール大帝の事蹟やイスラーム教の誕生とカリフの政権まで、現代にもつながる歴史の展開を通じて、現代社会の考察につなげる。	
11	7章 結びつくユーラシアの諸地域	(6)	イスラーム教を基軸とするムスリム政権の拡大や、宋と周辺諸国、モンゴル帝国を通じて、結びつくユーラシアの諸地域を理解する。	
12	(後期中間試験) 8章 キリスト教ヨーロッパの成熟と交流	19 (6)	教皇権の確立と十字軍の過程、その背景にあるヨーロッパの膨張と成熟、そしてヨーロッパの危機と再生について、中世から近世へと向かうヨーロッパの姿から歴史のダイナミズムを学ぶ。	
1	9章 交易の進展と東アジア・東南アジア	(5)	東西交流の動向から、明代の朝貢世界への展開を理解し、大交易時代に突入した東アジア・東南アジアの発展をヨーロッパ世界との比較において着目し、アジア繁栄の時代を考察する。	
2 ・ 3	10章 アジア諸地域の再編 (後期期末試験)	(8)	オスマン朝、サファヴィー朝、ムガル帝国鼎立の時代を学び、アジア諸地域の再編を理解する。また、清朝支配の拡大や清朝の近隣諸地域について学び、近代へのつながりを意識させる。	
合計時数		65		

科目	公共	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次全クラス
使用教材	『高等学校 公共』(教育図書) 『高等学校 公共 ワークノート』(教育図書) 『フォーラム 公共』(東京法令出版)						

目 標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を探究する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 現代の諸課題を捉えて考察し、選択・判断するための概念や理論を説明できるとともに、倫理的主体などとし活動するために必要となる情報を適切にかつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方などを活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断して自分の意見を持ち、合意形成を視野に入れながら話し合いをしている。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、自ら学んだことを基に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	ステップ2 現代の諸課題を捉えて考察し、選択・判断するために、手掛かりとなる概念や理論を理解したうえで、諸資料から情報を適切に調べている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理を活用して、事実を基に考察し公正に判断している。	現代の諸課題の解決に向け、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論を基に、自ら情報を調べようとしている。
	ステップ1 現代の諸課題を捉えて考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用して考察している。	現代の諸課題に関心を持ち、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論を自ら学ぼうとしている。
評価方法	授業時の観察 定期試験 課題レポート	授業時の観察 定期試験 課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲 ワークノートや課題レポートへの取り組み ルーブリックでの自己評価

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

最初に本時の課題を提示し、全体で課題解決のために思考しながら学びを進め、その過程において、ペア学習・グループワーク等を取り入れ、主体的・対話的な学びを目指す授業を実施します。

担当者より

学習を通じて、現代社会の課題に対する様々な見方・考え方があることを理解し、その複数性の中で、自分で考えたり、対話を通じて合意形成を目指したりする経験を通して、「公共的存在」としての能力を養うことを目指します。様々な社会問題を考えるテーマ学習を設定し、主体的・対話的な学びを通して、自らが社会参画者であることの自覚を深めることを期待します。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	第1章 公共の扉 公共的な空間を作る私たち	20 (5)	【内容】○人は一人では生きられない○人はどのようにつながるのか○自由と正義の実現を目指して○対話から生まれる公共○日本の公共思想 【ねらい】社会に参画する自立した主体とは、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。	
5	第1章 公共的な空間における人間としての在り方生き方	(6)	【内容】○功利主義と義務論○水俣病を考える○地球温暖化問題○誰が医療を支えるのか 【ねらい】行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが重要であることを理解できるようにするとともに、思考実験などを通して人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。	
6	第1章 公共の扉 公共的な空間における基本的原理 (前期中間試験)	(9)	【内容】○生徒会予算をどう分配するか○意見が分かれたときにどう決めるか○民主政治の歴史○日本国憲法の三つの原理○基本的人権の尊重○大学入試と男女差別○なぜ女性医師が日本では少ないのか○表現の自由とヘイトスピーチ 【ねらい】人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など公共的な空間における基本的原理を理解できるようにし、公共的な空間における基本的原理について、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。	
7 ・ 8	第2章 現代社会の諸課題 主として法に関わる事項	5 (5)	【内容】○法と社会○多様な契約○消費者の権利と責任○日本の司法制度○国民の司法参加 【ねらい】「法」に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できるようにする。	
9	第2章 現代社会の諸課題 主として政治に関わる事項(1) (前期期末試験)	15 (8)	【内容】○選挙と政治参加○公正な世論の形成○国会と内閣○地方自治○国家主権と領土○安全保障と防衛○21世紀の世界情勢○国際社会と日本 ○テーマ学習「日本の若者の投票率はなぜ低いのか？」○テーマ学習「国民投票は本当にベストな方法か？」○テーマ学習「紛争解決のために国際法は有効なのか？」○テーマ学習「憲法9条と日本の安全保障をどう両立させるか？」○テーマ学習「憲法前文から考える国際社会の中の日本」○テーマ学習「SDGsと私たちの生活はどう関係しているんだろう？」	
10	第2章 現代社会の諸課題 主として政治に関わる事項(2)	□	【ねらい】「政治」に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できるようにする。	
11	第2章 現代社会の諸課題 主として経済に関わる事項(1) (後期中間試験)	19 (8)	【内容】○職業選択○雇用と労働○労働者の権利○財政の役割○租税の仕組みと国債○少子化と社会保障○市場経済の役割と限界○金融のはたらき○日本銀行と金融政策○グローバル化と経済統合○格差是正と多文化主義 ○テーマ学習「AIの進化は仕事をどう変えるか？」○テーマ学習「都会で働くか、地方で働くか？」○テーマ学習「メンバーシップ型かジョブ型か」○テーマ学習「財政支出削減のため水道を民営化すべきか？」○テーマ学習「財政支出削減のため水道を民営化すべきか？」○テーマ学習「コンサートチケットの不正転売は防げるか？」	
12	第2章 現代社会の諸課題 主として経済に関わる事項(2)	(11)	【ねらい】「経済」に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できるようにする。	
1	第2章 現代社会の諸課題 主として情報に関わる事項	6	【内容】○つながりつばなしの私○災害時の情報発信と受信 【ねらい】「情報」に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できるようにする。	
2 ・ 3	第3章 持続可能な社会へ (後期期末試験)	(6)	【内容】○社会研究の方法○演劇で表現する○地域社会と共に学ぶ○バリアフリー社会の実現を目指して○SDGs実現のために私たちができること 【ねらい】持続可能な地域、国家、国際社会を担う主体として、課題を見出し、これまで学習してきた公共的な見方・考え方を働かせ、課題解決にむけて協働して取り組めるようにする。公共の学びが、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成にとどまらず、主体として社会に参画する姿勢にまでつなげていくことを目指す。	
合計時数		65		

科目	数学Ⅱ	単位数	4	週時間数	4	年次・コース・組	2年次・一般(理・文)
使用教材	教科書: NEXT 数学Ⅱ 問題集: CONNECT 数学Ⅱ+B						

目 標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 ↑ 公式・定理を体系的に理解し、問題の解決に向けてそれらを有効に活用することができる	身の回りの事象から問題を見だし、様々な角度から考察し、解決することができ、それらを論理的に表現できる。	様々な問題に幅広く目を向け、その解決に向け、数学的論拠に基づき積極的に取り組むことができる。
	ステップ2 基本的な公式、定理を複数結びつけて考えることができる。	身の回りの事象の解決に数学的考察を取り入れることができ、それらを的確に表現できる。	基本的な知識を組み合わせ、論理的に問題の解決に向け取り組むことができる。
	ステップ1 基本的な公式、定理を用いて問題を考えることができる。	身の回りの事象に数学的考察が用いられることを知り、それらを表現することができる。	なぜその解法で解けるのか疑問を持って取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲、課題の提出状況、振り返りシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

習熟度による小クラス展開で授業を行います。一斉授業、グループ活動、ペア学習など内容により、授業の形態も異なります。それぞれの授業形態の中で、理解し、考えを深め、アウトプットが出来るようにすること。

担当者より

プリント学習では穴埋めなど予習をして臨むこと。予習してくることで、授業では、その内容をより深く考えながら受けることができます。復習を行い確実に知識や技能を定着させること。4単位で内容が多くなります。日々の課題なども利用し、効率よく復習を行って下さい。各自がレベルアップ出来るように、質問をしたり、問題を深く考察するなどし取り組んで下さい。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	1章 式と証明 1. 式と計算 2. 等式・不等式の証明	13 (11)	多項式の乗法、除法の計算や、分数式の計算が出来るようにする。また、恒等式について方程式と区別して理解し、様々な式の見方が出来るような力を培う。式の計算や実数の性質を活用して、等式、不等式の証明が出来るようにする。	
5	2章 複素数と方程式 1. 複素数と2次方程式の ... (前期中間試験Ⅰ) 2. 高次方程式	13 (11)	数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算が出来るようにする。2次方程式やその解について一般的に考察できるようにする。	
6	3章 図形と方程式 1. 点と直線 (前期中間試験Ⅱ)	25 (9) (2)	高次方程式を因数分解などより低い次数の方程式に帰着することで、解いたり、その解について考察したりできるようにする。 座標や式を用いて、点や直線についてその性質や関係を数学的に表現できるようにし、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	
7	2. 円	(8)	座標や式を用いて、円についてその性質を数学的に表現できるようにし、直線との関係、円どうしの関係など事象の考察に活用できるようにする。	
8	3. 軌跡と領域	(4)	図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識し、軌跡の方程式が求められるようにする。また、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解する。さらに、軌跡や領域を事象の考察に活用できるようにする。	
9	4章 三角関数 1. 三角関数 (前期期末試験)	21 (9)	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について理解し、それらを多面的に考察できるようにする。	
10	2. 加法定理	(17)	加法定理および加法定理から導かれる様々な定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
11	5章 指数関数と対数関数 1. 指数関数 (後期中間試験) 2. 対数関数	16 (11) (2)	指数を実数まで拡張する意義を理解し、指数関数を事象の考察に活用できるようにする。 対数の定義とその性質を理解し、対数関数、特に常用対数を事象の考察に活用できるようにする。	
12	6章 微分法と積分法 1. 微分係数と導関数	28 (7)	微分係数や導関数の意味について理解し、多項式で表された関数の導関数が求められるようにする。また、関数のグラフの接線が求められるようにする。	
1	2. 関数の値の変化	(13)	導関数を用いて、関数の値の増減が調べられるようにする。また、それを用いて関数のグラフをかいたり、グラフを様々な事象の考察に活用したりできるようにする。	
2	3. 積分法	(9)	不定積分や定積分について理解し、それらの有用性を認識するとともに、定積分を用いてグラフで囲まれた図形の面積が求められるようにする。	
3				
合計時数		116		

科目	数学Ⅱ	単位数	4	週時間数	4	年次・コース・組	2年次・探究(理・文)
使用教材	教科書: NEXT 数学Ⅱ 問題集: CONNECT 数学Ⅱ+B						

目 標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 公式・定理を体系的に理解し、問題の解決に向けてそれらを有効に活用することができる	身の回りの事象から問題を見だし、様々な角度から考察し、解決することができ、それらを論理的に表現できる。	様々な問題に幅広く目を向け、その解決に向け、数学的論拠に基づき積極的に取り組むことができる。
	ステップ2 基本的な公式、定理を複数結びつけて考えることができる。	身の回りの事象の解決に数学的考察を取り入れることができ、それらを的確に表現できる。	基本的な知識を組み合わせ、論理的に問題の解決に向け取り組むことができる。
	ステップ1 基本的な公式、定理を用いて問題を考えることができる。	身の回りの事象に数学的考察が用いられることを知り、それらを表現することができる。	なぜその解法で解けるのか疑問を持って取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲、課題の提出状況、振り返りシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

習熟度による小クラス展開で授業を行います。一斉授業、グループ活動、ペア学習など内容により、授業の形態も異なります。それぞれの授業形態の中で、理解し、考えを深め、アウトプットが出来るようにすること。

担当者より

プリント学習では穴埋めなど予習をして臨むこと。予習してくることで、授業では、その内容をより深く考えながら受けることができます。復習を行い確実に知識や技能を定着させること。4単位で内容が多くなります。日々の課題なども利用し、効率よく復習を行って下さい。また、数学の内容や問いに対して、試行錯誤や議論する中で答えを導き出すなど、自ら学びを深めること意識し、取り組んで下さい。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	1章 式と証明 1. 式と計算 2. 等式・不等式の証明	13 (11)	多項式の乗法、除法の計算や、分数式の計算が出来るようにする。また、恒等式について方程式と区別して理解し、様々な式の見方が出来るような力を培う。式の計算や実数の性質を活用して、等式、不等式の証明が出来るようにする。	
5	2章 複素数と方程式 1. 複素数と2次方程式の ... (前期中間試験Ⅰ) 2. 高次方程式	13 (11)	数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算が出来るようにする。2次方程式やその解について一般的に考察できるようにする。	
6	3章 図形と方程式 1. 点と直線 (前期中間試験Ⅱ)	25 (9) (2)	座標や式を用いて、点や直線についてその性質や関係を数学的に表現できるようにし、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	
7	2. 円	(8)	座標や式を用いて、円についてその性質を数学的に表現できるようにし、直線との関係、円どうしの関係など事象の考察に活用できるようにする。	
8	3. 軌跡と領域	(4)	図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識し、軌跡の方程式が求められるようにする。また、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解する。さらに、軌跡や領域を事象の考察に活用できるようにする。	
9	4章 三角関数 1. 三角関数 (前期期末試験)	21 (9)	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について理解し、それらを多面的に考察できるようにする。	
10	2. 加法定理	(17)	加法定理および加法定理から導かれる様々な定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
11	5章 指数関数と対数関数 1. 指数関数 (後期中間試験) 2. 対数関数	16 (11) (2)	指数を実数まで拡張する意義を理解し、指数関数を事象の考察に活用できるようにする。	
12	6章 微分法と積分法 1. 微分係数と導関数	28 (7)	微分係数や導関数の意味について理解し、多項式で表された関数の導関数が求められるようにする。また、関数のグラフの接線が求められるようにする。	
1	2. 関数の値の変化	(13)	導関数を用いて、関数の値の増減が調べられるようにする。また、それを用いて関数のグラフをかいたり、グラフを様々な事象の考察に活用したりできるようにする。	
2	3. 積分法	(9)	不定積分や定積分について理解し、それらの有用性を認識するとともに、定積分を用いてグラフで囲まれた図形の面積が求められるようにする。	
3				
合計時数		116		

No.

科目	数学B	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次・一般(文)
使用教材	教科書: NEXT数学B 問題集: CONNECT 数学Ⅱ+B						

目 標	数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 ↑ 公式・定理を体系的に理解し、問題の解決に向けてそれらを有効に活用することができる	身の回りの事象から問題を見だし、様々な角度から考察し、解決することができ、それらを論理的に表現できる。	様々な問題に幅広く目を向け、その解決に向け、数学的論拠に基づき積極的に取り組むことができる。
	ステップ2 基本的な公式、定理を複数結びつけて考えることができる。	身の回りの事象の解決に数学的考察を取り入れることができ、それらを的確に表現できる。	基本的な知識を組み合わせ、論理的に問題の解決に向け取り組むことができる。
	ステップ1 基本的な公式、定理を用いて問題を考えることができる。	身の回りの事象に数学的考察が用いられることを知り、それらを表現することができる。	なぜその解法で解けるのか疑問を持って取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲、課題の提出状況、振り返りシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

習熟度による小クラス展開で授業を行います。一斉授業、グループ活動、ペア学習など内容により、授業の形態も異なります。それぞれの授業形態の中で、理解し、考えを深め、アウトプットが出来るようにすること。

担当者より

プリント学習では穴埋めなど予習をして臨むこと。予習してくることで、授業では、その内容をより深く考えながら受けることができます。復習を行い確実に知識や技能を定着させること。2単位なので予習、復習や日々の課題なども利用し、定着できるような学習を行って下さい。各自がレベルアップ出来るように、質問をしたり、問題を深く考察するなどし取り組んで下さい。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	1章 数列 1. 等差数列と等比数列	28 (6)	数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として、等差数列と等比数列を理解し、それらの和を、公式が導き出される過程を理解した上で求められるようにする。また、数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	
5		(4)		
	(前期中間試験Ⅰ)	(1)		
6	2. いろいろな数列	(4)	和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	
	(前期中間試験Ⅱ)	(2)		
7	3. 漸化式と数学的帰納法	(4)	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	
8		(2)		
9		(5)		
	(前期期末試験)			
10	2章 統計的な推測 1. 確率分布	30 (7)	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差など求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	
11		(6)		
	(後期中間試験)	(2)		
12	2. 統計的な推測	(3)	母集団と標本、標本調査について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮設検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	
1		(7)		
2		(5)		
	(後期期末試験)			
3				
合計時数		58		

科目	数学B	単位数	3	週時間数	3	年次・コース・組	2年次・一般(理)
使用教材	教科書: NEXT数学B 問題集: CONNECT 数学Ⅱ+B						

目 標	数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 公式・定理を体系的に理解し、問題の解決に向けてそれらを有効に活用することができる	身の回りの事象から問題を見だし、様々な角度から考察し、解決することができ、それらを論理的に表現できる。	様々な問題に幅広く目を向け、その解決に向け、数学的論拠に基づき積極的に取り組むことができる。
	ステップ2 基本的な公式、定理を複数結びつけて考えることができる。	身の回りの事象の解決に数学的考察を取り入れることができ、それらを的確に表現できる。	基本的な知識を組み合わせ、論理的に問題の解決に向け取り組むことができる。
	ステップ1 基本的な公式、定理を用いて問題を考えることができる。	身の回りの事象に数学的考察が用いられることを知り、それらを表現することができる。	なぜその解法で解けるのか疑問を持って取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲、課題の提出状況、振り返りシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

習熟度による小クラス展開で授業を行います。一斉授業、グループ活動、ペア学習など内容により、授業の形態も異なります。それぞれの授業形態の中で、理解し、考えを深め、アウトプットが出来るようにすること。

担当者より

プリント学習では穴埋めなど予習をして臨むこと。予習してくることで、授業では、その内容をより深く考えながら受けることができます。復習を行い確実に知識や技能を定着させること。予習、復習や日々の課題なども利用し、定着できるような学習を行って下さい。各自がレベルアップ出来るように、質問をしたり、問題を深く考察するなどし取り組んで下さい。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	1章 数列 1. 等差数列と等比数列	29 (8)	数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として、等差数列と等比数列を理解し、それらの和を、公式が導き出される過程を理解した上で求められるようにする。また、数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	
5	2. いろいろな数列 (前期中間試験Ⅰ)	(6)	和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	
6	3. 漸化式と数学的帰納法 (前期中間試験Ⅱ)	(1) (6) (2)	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	
7		(6)		
8	2章 統計的な推測 1. 確率分布	31 (2)	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差など求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	
9		(7)		
	(前期期末試験)			
10	2. 統計的な推測	(11)	母集団と標本、標本調査について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮設検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	
11		(8)		
	(後期中間試験)	(1)		
12		(5)		
1	演習 基本問題	10 (9)	1～2章で学んだ内容を理解し、基本的な知識や技能の習得を図る。	
2	演習 標準・応用問題 課題学習	9 (7)	1～2章で学んだ内容に関して、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につける。	
	(後期期末試験)			
3				
合計時数		79		

No.

科目	数学B	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次・探究(文)
使用教材	教科書: NEXT 数学B 問題集: CONNECT 数学Ⅱ+B						

目 標	数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 ↑ 公式・定理を体系的に理解し、問題の解決に向けてそれらを有効に活用することができる	身の回りの事象から問題を見だし、様々な角度から考察し、解決することができ、それらを論理的に表現できる。	様々な問題に幅広く目を向け、その解決に向け、数学的論拠に基づき積極的に取り組むことができる。
	ステップ2 基本的な公式、定理を複数結びつけて考えることができる。	身の回りの事象の解決に数学的考察を取り入れることができ、それらを的確に表現できる。	基本的な知識を組み合わせ、論理的に問題の解決に向け取り組むことができる。
	ステップ1 ↓ 基本的な公式、定理を用いて問題を考えることができる。	身の回りの事象に数学的考察が用いられることを知り、それらを表現することができる。	なぜその解法で解けるのか疑問を持って取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲、課題の提出状況、振り返りシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

習熟度による小クラス展開で授業を行います。一斉授業、グループ活動、ペア学習など内容により、授業の形態も異なります。それぞれの授業形態の中で、理解し、考えを深め、アウトプットが出来るようにすること。

担当者より

プリント学習では穴埋めなど予習をして臨むこと。予習してくることで、授業では、その内容をより深く考えながら受けることができます。復習を行い確実に知識や技能を定着させること。日々の課題なども利用し、効率よく復習を行って下さい。また、数学の内容や問いに対して、試行錯誤や議論する中で答えを導き出すなど、自ら学びを深めること意識し、取り組んで下さい。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	1章 数列 1. 等差数列と等比数列	28 (6)	数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として、等差数列と等比数列を理解し、それらの和を、公式が導き出される過程を理解した上で求められるようにする。また、数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	
5		(4)		
	(前期中間試験Ⅰ)	(1)		
6	2. いろいろな数列	(4)	和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	
	(前期中間試験Ⅱ)	(2)		
7	3. 漸化式と数学的帰納法	(4)	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	
8		(2)		
9		(5)		
	(前期期末試験)			
10	2章 統計的な推測 1. 確率分布	30 (7)	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差など求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	
11		(6)		
	(後期中間試験)	(2)		
12	2. 統計的な推測	(3)	母集団と標本、標本調査について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮設検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	
1		(7)		
2		(5)		
	(後期期末試験)			
3				
合計時数		58		

科目	数学B	単位数	3	週時間数	3	年次・コース・組	2年次・探究(理)
使用教材	教科書: NEXT 数学B 問題集: CONNECT 数学Ⅱ + B						
目 標	数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 ↑ 公式・定理を体系的に理解し、問題の解決に向けてそれらを有効に活用することができる	身の回りの事象から問題を見だし、様々な角度から考察し、解決することができ、それらを論理的に表現できる。	様々な問題に幅広く目を向け、その解決に向け、数学的論拠に基づき積極的に取り組むことができる。
	ステップ2 基本的な公式、定理を複数結びつけて考えることができる。	身の回りの事象の解決に数学的考察を取り入れることができ、それらを的確に表現できる。	基本的な知識を組み合わせ、論理的に問題の解決に向け取り組むことができる。
	ステップ1 基本的な公式、定理を用いて問題を考えることができる。	身の回りの事象に数学的考察が用いられることを知り、それらを表現することができる。	なぜその解法で解けるのか疑問を持って取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、ステップテスト、課題テスト、課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲、課題の提出状況、振り返りシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

習熟度による小クラス展開で授業を行います。一斉授業、グループ活動、ペア学習など内容により、授業の形態も異なります。それぞれの授業形態の中で、理解し、考えを深め、アウトプットが出来るようにすること。

担当者より

プリント学習では穴埋めなど予習をして臨むこと。予習してくることで、授業では、その内容をより深く考えながら受けることができます。復習を行い確実に知識や技能を定着させること。日々の課題なども利用し、効率よく復習を行って下さい。また、数学の内容や問いに対して、試行錯誤や議論する中で答えを導き出すなど、自ら学びを深めること意識し、取り組んで下さい。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	1章 数列 1. 等差数列と等比数列	29 (8)	数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として、等差数列と等比数列を理解し、それらの和を、公式が導き出される過程を理解した上で求められるようにする。また、数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	
5	2. いろいろな数列 (前期中間試験Ⅰ)	(6)	和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	
6	3. 漸化式と数学的帰納法 (前期中間試験Ⅱ)	(1) (6) (2)	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	
7		(6)		
8	2章 統計的な推測 1. 確率分布	31 (2)	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差など求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	
9		(7)		
10	(前期期末試験)			
11	2. 統計的な推測 (後期中間試験)	(11) (8) (1)	母集団と標本、標本調査について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮設検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	
12		(5)		
1	演習 基本問題	10 (9)	1～2章で学んだ内容を理解し、基本的な知識や技能の習得を図る。	
2	演習 標準・応用問題 課題学習 (後期期末試験)	9 (7)	1～2章で学んだ内容に関して、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につける。	
3				
合計時数		79		

科目	物理	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次・一般コース・理系
使用教材	物理(数研出版) 新課程 リードα 物理基礎・物理(数研出版) 新課程 フォローアップドリル 物理基礎(数研出版) 新課程 フォトサイエンス 物理図録(数研出版)						

目 標	(1)物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 学習した物理の基本的な概念や原理・法則を正しく理解し、その後の学習や生活の中で新しい事象の解釈に応用している。 推論、実験、検証の過程で科学的な考え方・方法を用い、科学的に探究するために必要な観察・事件などに関する基本的な技能を正しく身に付けている。	課題を遂行するにあたり、科学的・論理的に思考し、判断している。 課題の設定理由、研究課程および自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく工夫して相手に伝えることができる。	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、理解しようとしている。 物理的な事物・現象に対する気づきから課題を設定し解決しようとする態度を身につけている。
	ステップ 2 学習した物理の基本的な概念や原理・法則を正しく理解している。 科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を正しく身に付けている。	課題を遂行するにあたり、科学的・論理的に思考している。 課題の設定理由、研究課程および自らの考えを的確・簡潔に相手に伝えることができる。	物理的な事物・現象に対して関わり、理解しようとしている。 物理的な事物・現象に対する課題を解決しようとする態度を身につけている。
	ステップ 1 学習した物理の基本的な概念や原理・法則を理解している。 科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	課題を遂行するにあたり、科学的に思考している。 課題の設定理由、研究課程および自らの考えを相手に伝えることができる。	物理的な事物・現象を理解しようとしている。 物理的な事物・現象に対する課題に気づこうとしている。
評価方法	定期試験 授業内の発言や問題に対する答え 実験やグループ活動	定期試験での論述問題 発表内容と発表の仕方 実験等の報告書	学習に対する態度 自己評価・相互評価の内容 課題や報告書の提出 実験やグループ活動での参加態度

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

・授業の中に実験・観察の場面や話し合いなどのグループ活動の場面を設定する。 ・定期試験ごとに学習内容の振り返りや自己評価・相互評価を行う。 ・定期試験の際に課題(学習ノートや授業ノートなど)を提出する。

担当者より

・1年次「物理基礎」の学習内容を確認しながら授業をすすめる。 ・理工学系・医療系の大学等で学ぶための基礎的な知識や物理学的な思考法を身につけるため、日々の学習では授業の復習に重点をおき、問題演習の時間も確保すること。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	ガイダンス 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 第2章 剛体 ＜前期中間試験Ⅰ＞	11	【内容】 ・平面運動の速度・加速度 ・落体の運動 ・剛体にはたらく力のつりあい ・剛体にはたらく力の合力と重心 ・運動量と力積 ・運動量保存則 ・反発係数 ・等速円運動 ・慣性力 ・単振動 ・万有引力	知識・技能 ・平面上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。 ・斜方投射の鉛直方向と水平方向の運動を理解し、適切に式を運用できる。 ・剛体のつりあいの条件を理解している。 ・剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができる。 ・運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しいことを理解している。 ・直線運動、平面運動における運動量保存則を式で表現することができる。 ・反発係数の定義を理解している。 ・等速円運動するのに必要な向心力を理解し、運動方程式を立てることができる。 ・慣性力を含めたつりあいの式を立てることができる。 ・単振動の変位、速度、加速度、運動方程式を理解している。 ・ケプラーの法則を理解し、力学的エネルギー保存則の式を立てることができる。	
5					
6	第3章 運動量の保存 ＜前期中間試験Ⅱ＞	9		思考力・判断力・表現力 ・動く観測者から見た場合の物体の運動の様子を説明できる。 ・斜方投射の運動のようすを説明できる。 ・剛体のつりあいの条件を説明できる。 ・剛体の傾く条件を説明できる。 ・運動量の変化と力積の関係を説明できる。 ・運動量保存則が成り立つ条件を説明できる。 ・運動量保存則と反発係数の式から、物体の運動を説明できる。 ・等速円運動の中心方向の運動方程式から、物体の運動を考えることができる。 ・慣性力とその他の力の違いについて説明できる。 ・ばね振り子や単振り子の周期について説明できる。 ・無限遠を基準とした万有引力の位置エネルギーについて説明できる。	
7 8	第4章 円運動と万有引力 ＜前期期末試験＞	13		主体的に取り組む態度 ・平面運動をする物体の運動の表し方について学ぶ意味を理解しようとしている。 ・剛体のつりあいに必要な条件を理解しようとしている。 ・物体の運動について、運動量と力積を用いて理解しようとしている。 ・身のまわりにある物体どうしの衝突について理解賞としている。 ・等速円運動する物体にはたらく力について理解しようとしている。 ・身近な現象における慣性力について理解しようとしている。 ・単振動する物体の速度や加速度がどのように変化するか理解しようとしている。	
9					
10	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 ＜後期中間試験＞	15	【内容】 ・気体の法則 ・気体分子の運動 ・気体の状態変化	知識・技能 ・ボイル・シャルルの法則、状態方程式を用いることができる。 ・気体分子の運動から、気体が面に及ぼす圧力を求めることができる。 ・気体の状態変化について、 p - v 図や式で表すことができる。	
11				思考力・判断力・表現力 ・気体の圧力、体積、絶対温度の間の関係について理解し説明できる。 ・気体分子の速度と圧力の関係について説明できる。 ・モル比熱について正しく理解し説明できる。 主体的に取り組む態度 ・気体の圧力、体積、温度を変えるとき、どのような関係性があるのか理解しようとしている。 ・気体の状態変化をするとき、エネルギーはどのようになるのか理解しようとしている。	
12	第3編 波 第1章 波の伝わり方 ＜後期中間試験＞	17	【内容】 ・波と媒質の運動 ・正弦波の式 ・波の伝わり方 ・音の伝わり方 ・音のドップラー効果 ・光の性質 ・レンズと鏡 ・光の干渉と回折	知識・技能 ・波が伝わるようすをグラフで表現することができ、正弦波の式を正しく表すことができる。 ・水面波の干渉、反射・屈折の法則を理解している。 ・ドップラー効果の式を用いて、観測者が聞く音の振動数を求めることができる。 ・光の反射・屈折における法則を理解している。 ・写像公式を利用して像のできる位置や像の大きさなどを求めることができる。 ・各現象における光の干渉条件を理解している。 思考力・判断力・表現力 ・正弦波の式と媒質の単振動の変位の式との関係を説明できる。 ・観測者が動く場合のドップラー効果を説明できる。 ・光の干渉による明線の変化について説明できる。 主体的に取り組む態度 ・身近な波の現象について興味をもち、その基本事項について理解しようとしている。 ・音や光が関係する現象に興味をもち、基本的な性質と伝わり方について理解しようとしている。 ・ヤングの実験や回折格子による干渉実験に主体的に取り組んでいる。	
1 2 3	第2章 音の伝わり方 第3編 光 ＜後期期末試験＞				
合計時数				65	

科目	物理	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次・探究コース・理系
使用教材	物理(数研出版) 新課程 リードα 物理基礎・物理(数研出版) 新課程 フォローアップドリル 物理基礎(数研出版) 新課程 フォトサイエンス 物理図録(数研出版)						

目 標	(1)物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 学習した物理の基本的な概念や原理・法則を正しく理解し、その後の学習や生活の中で新しい事象の解釈に応用している。 推論、実験、検証の過程で科学的な考え方・方法を用い、科学的に探究するために必要な観察・事件などに関する基本的な技能を正しく身に付けている。	課題を遂行するにあたり、科学的・論理的に思考し、判断している。 課題の設定理由、研究課程および自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく工夫して相手に伝えることができる。	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、理解しようとしている。 物理的な事物・現象に対する気づきから課題を設定し解決しようとする態度を身につけている。
	ステップ 2 学習した物理の基本的な概念や原理・法則を正しく理解している。 科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を正しく身に付けている。	課題を遂行するにあたり、科学的・論理的に思考している。 課題の設定理由、研究課程および自らの考えを的確・簡潔に相手に伝えることができる。	物理的な事物・現象に対して関わり、理解しようとしている。 物理的な事物・現象に対する課題を解決しようとする態度を身につけている。
	ステップ 1 学習した物理の基本的な概念や原理・法則を理解している。 科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	課題を遂行するにあたり、科学的に思考している。 課題の設定理由、研究課程および自らの考えを相手に伝えることができる。	物理的な事物・現象を理解しようとしている。 物理的な事物・現象に対する課題に気づこうとしている。
評価方法	定期試験 授業内の発言や問題に対する答え 実験やグループ活動	定期試験での論述問題 発表内容と発表の仕方 実験等の報告書	学習に対する態度 自己評価・相互評価の内容 課題や報告書の提出 実験やグループ活動での参加態度

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

・授業の中に実験・観察の場面や話し合いなどのグループ活動の場面を設定する。 ・定期試験ごとに学習内容の振り返りや自己評価・相互評価を行う。 ・定期試験の際に課題(学習ノートや授業ノートなど)を提出する。

担当者より

・1年次「物理基礎」の学習内容を確認しながら授業をすすめる。 ・理工学系・医療系の難関大学を含む大学等で学ぶための基礎的な知識や物理学的な思考法を身につけるため、日々の学習では授業の復習に重点をおき、問題演習の時間も確保すること。
--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	ガイダンス 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 第2章 剛体 ＜前期中間試験Ⅰ＞	11	【内容】 ・平面運動の速度・加速度 ・落体の運動 ・剛体にはたらく力のつりあい ・剛体にはたらく力の合力と重心 ・運動量と力積 ・運動量保存則 ・反発係数 ・等速円運動 ・慣性力 ・単振動 ・万有引力	知識・技能 ・平面上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。 ・斜方投射の鉛直方向と水平方向の運動を理解し、適切に式を運用できる。 ・剛体のつりあいの条件を理解している。 ・剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができる。 ・運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しいことを理解している。 ・直線運動、平面運動における運動量保存則を式で表現することができる。 ・反発係数の定義を理解している。 ・等速円運動するのに必要な向心力を理解し、運動方程式を立てることができる。 ・慣性力を含めたつりあいの式を立てることができる。 ・単振動の変位、速度、加速度、運動方程式を理解している。 ・ケプラーの法則を理解し、力学的エネルギー保存則の式を立てることができる。 思考力・判断力・表現力 ・動く観測者から見た場合の物体の運動の様子を説明できる。 ・斜方投射の運動のようすを説明できる。 ・剛体のつりあいの条件を説明できる。 ・剛体の傾く条件を説明できる。 ・運動量の変化と力積の関係を説明できる。 ・運動量保存則が成り立つ条件を説明できる。 ・運動量保存則と反発係数の式から、物体の運動を説明できる。 ・等速円運動の中心方向の運動方程式から、物体の運動を考えることができる。 ・慣性力とその他の力の違いについて説明できる。 ・ばね振り子や単振り子の周期について説明できる。 ・無限遠を基準とした万有引力の位置エネルギーについて説明できる。 主体的に取り組む態度 ・平面運動をする物体の運動の表し方について学ぶ意味を理解しようとしている。 ・剛体のつりあいに必要な条件を理解しようとしている。 ・物体の運動について、運動量と力積を用いて理解しようとしている。 ・身のまわりにある物体どうしの衝突について理解賞としている。 ・等速円運動する物体にはたらく力について理解しようとしている。 ・身近な現象における慣性力について理解しようとしている。 ・単振動する物体の速度や加速度がどのように変化するか理解しようとしている。	
5					
6	第3章 運動量の保存 ＜前期中間試験Ⅱ＞	9			
7 8	第4章 円運動と万有引力 ＜前期期末試験＞	13			
9					
10	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 ＜後期中間試験＞	15	【内容】 ・気体の法則 ・気体分子の運動 ・気体の状態変化	知識・技能 ・ボイル・シャルルの法則、状態方程式を用いることができる。 ・気体分子の運動から、気体が面に及ぼす圧力を求めることができる。 ・気体の状態変化について、 p - V 図や式で表すことができる。 思考力・判断力・表現力 ・気体の圧力、体積、絶対温度の間の関係について理解し説明できる。 ・気体分子の速度と圧力の関係について説明できる。 ・モル比熱について正しく理解し説明できる。 主体的に取り組む態度 ・気体の圧力、体積、温度を変えるとき、どのような関係性があるのか理解しようとしている。 ・気体の状態変化をするとき、エネルギーはどのようになるのか理解しようとしている。	
11					
12	第3編 波 第1章 波の伝わり方 ＜後期中間試験＞	17	【内容】 ・波と媒質の運動 ・正弦波の式 ・波の伝わり方 ・音の伝わり方 ・音のドップラー効果 ・光の性質 ・レンズと鏡 ・光の干渉と回折	知識・技能 ・波が伝わるようすをグラフで表現することができ、正弦波の式を正しく表すことができる。 ・水面波の干渉、反射・屈折の法則を理解している。 ・ドップラー効果の式を用いて、観測者が聞く音の振動数を求めることができる。 ・光の反射・屈折における法則を理解している。 ・写像公式を利用して像のできる位置や像の大きさなどを求めることができる。 ・各現象における光の干渉条件を理解している。 思考力・判断力・表現力 ・正弦波の式と媒質の単振動の変位の式との関係を説明できる。 ・観測者が動く場合のドップラー効果を説明できる。 ・光の干渉による明線の変化について説明できる。 主体的に取り組む態度 ・身近な波の現象について興味をもち、その基本事項について理解しようとしている。 ・音や光が関係する現象に興味をもち、基本的な性質と伝わり方について理解しようとしている。 ・ヤングの実験や回折格子による干渉実験に主体的に取り組んでいる。	
1 2 3	第2章 音の伝わり方 第3編 光 ＜後期期末試験＞				
合計時数		65			

科目	化学基礎	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次文系
使用教材	化学基礎(数研出版)						

目 標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解する。 (2)観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化の学習に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
↑ 評価規準	ステップ3 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、充分にできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、充分に身につけている。	自ら学習を調整し、粘り強く学習に取り組んでいる。
	ステップ2 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、概ねできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、概ね身につけている。	自ら学習を調整し、学習に取り組んでいる。
	ステップ1 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、不十分である。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などが、不十分である。	学習への取り組みが不十分である。
評価方法	定期試験(知識を重視した問題)発言	定期試験(思考を重視した問題)発言	提出物 授業や課題への取り組み 発言

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

・授業は各クラス毎に行う。学習の進み具合に応じ、クラスによって学習内容が異なることもありうる。 ・必要に応じて、実験観察の場面や話し合いの場面を設定する。 ・大きなまとまりごとに、学習内容の振り返りと自己評価を行う。 ・生徒実験の際はレポートを作成する。 ・理解の程度を確認し、思考力を伸ばすための学習課題を適宜与える。
--

担当者より

私たちは環境問題を避けて生きることができません。したがって、日常生活と化学との関わりは文系の生徒にとっても重要なものです。「化学基礎」では、1年間を通して、身近な化学物質ならびに基本的な化学の知識について学んでいきます。
--

学習計画

月	単 元 名		予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い			実施時数
4 5	序章	化学の特徴	前期中間 I まで	化学的なものの見 方や考え方につ いて学ぶ。	知識・技能	・実験器具の使い方を知る。 ・試薬取扱の留意事項を知る。 ・実験器具や試薬を正しく使用することができる。	
				①探究とは ②実験を行うにあ たって	思考・判断・表現	・実験器具の使い方を区別することができる。 ・実験結果を分析・考察することができる。	
					主体的に学習に 取り組む態度	・身近な出来事に関心をもち、その内容を伝える。 ・積極的かつ丁寧な態度で授業に参加することができる。	
	第1編 物質の 構成と化学結 合	第1章 物質の 構成	10	特徴的な物質を 整理・分類し、共 通した要素や個々 の相違点を考える ことで、物質の成 りたちを追求す る。	知識・技能	・混合物を分離する方法をあげる。 ・実際に混合物を分離する。 ・炭素、酸素、リン、硫黄の同素体をあげる。 ・代表的な成分元素について検出法を理解する。 ・物質の状態と熱運動の関係を理解する。 ・物理変化と化学変化の違いを理解する。	
				①純物質と混合 物 ②物質とその成分 ③物質の三態と 熱運動	思考・判断・表現	・純物質と混合物の違いを説明することができる。 ・物質を分離する操作について説明することができる。 ・いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。 ・物質を加熱したり冷却したりしたときの温度変化をグラフに表す ことができる。	
					主体的に学習に 取り組む態度	・物質の構成に関する課題に取り組み、提出する。	
6	第1編 物質の 構成と化学結 合	第2章物質の 構成粒子	前期中間 II まで	物質を構成する基 礎的な粒子である 原子と、原子から 生じるイオンにつ いて、その構造や 表し方、それらの 関係を学ぶ。	知識・技能	・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量 の関係について理解する。 ・単原子イオンの電子配置と表し方を知る。 ・イオン化エネルギーの概念を理解する。 ・元素の典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性などの分布およ び同族元素について理解する。	
				①原子とその構造 ②イオン ③周期表	思考・判断・表現	・原子がどのような粒子から構成されているかを説明することが できることができる。 ・安定な電子配置について説明することができる。 ・価電子の数と化学的性質の関連について説明することができ る。	
					主体的に学習に 取り組む態度	物質の構成粒子に関する課題に取り組み、提出する。	
	第1編 物質の 構成と化学結 合	第3章 粒子の 結合	8	物質を構成する粒 子がどのようなし くみで結合してい るのかについて、中 学校での学習を基 にさらに詳しく扱う。 物質の性質との 関連も同時に学 ぶ。	知識・技能	・主な物質の名称を知る。 ・主な物質を組成式又は分子式で表す。 ・イオン結晶の特徴を示す。 ・主な分子を電子式、構造式で表す。 ・配位結合について理解する。 ・極性について理解する。 ・高分子化合物の成りたちを理解する。 ・共有結合結晶の具体例とその性質を理解する。 ・金属の特徴を示す。	
				①イオン結合とイ オン結晶 ②共有結合と分 子 ③配位結合 ④分子間にはたら く力 ⑤高分子化合物 ⑥共有結合の結 晶 ⑦金属結合と金 属結晶	思考・判断・表現	・イオン結晶の性質について説明することができる。 ・塩化アンモニウム結晶に含まれる結合を説明することができ る。 ・分子を極性分子と無極性分子に分類できる。 ・分子間力や分子結晶の性質を説明することができる。 ・付加重合や縮合重合について説明することができる。 ・ダイヤモンドと黒鉛の性質の違いを説明することができる。	
					主体的に学習に 取り組む態度	・粒子の結合に関する課題に取り組み、提出する。	
7 8 9	第2編 物質の 変化	第1章 物質質量 と化学反応式	前期末ま で	物質の質量と、物 質を構成する原 子・分子・イオンな どの質量や数との 関係や、気体の体 積との関係を学 び、化学の学習に 欠かすことのでき ない物質質量の考 え方を身につけ ①原子量・分子 量・式量 ②物質質量 ③溶液の濃度 ④化学反応式と 物質質量	知識・技能	・原子量・分子量・式量を求める。 ・物質質量の考え方を理解する。 ・いろいろな濃度の表し方を知る。 ・目的の濃度の水溶液を調製する。 ・化学反応を化学反応式で表す。 ・化学反応における量的な関係を化学反応式から読み取る。 ・原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学 び、化学の基礎法則を理解する。	
					思考・判断・表現	・粒子の数・質量・気体の体積、及び物質質量を相互に換算するこ とができる。 ・2種類の濃度の換算ができる。 ・化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積 変化でとらえることができる。 ・化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。	
			12		主体的に学習に 取り組む態度	物質質量と化学反応式に関する課題に取り組み、提出する。	

10 11	第2編 物質の変化	第2章 酸と塩基の反応	後期中間まで	酸・塩基の定義や酸性・塩基性の本質、酸性・塩基性の強さの表し方を学ぶ。 また、中和の量的関係、及び塩の水溶液の液性について学ぶ。	知識・技能	・酸・塩基の価数、電離度を理解する。 ・中和の意味を理解する。 ・水溶液中のH ⁺ の濃度をpHで表すことができる方法を理解する。 ・中和反応を化学反応式で表すことができる。 ・酸性塩・塩基性塩・正塩の分類について理解する。 ・未知の酸や塩基の濃度を、中和滴定により決定する。 ・中和滴定で使用する器具を正しく扱う。	
				14	①酸・塩基 ②水素イオン濃度とpH ③中和反応と塩 ④中和滴定	思考・判断・表現	・中和の意味に基づいて酸と塩基を見極めることができる。 ・pHの値から酸性、塩基性の強弱が判断することができる。 ・OH ⁻ 濃度からpHを求めることができる。 ・塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断することができる。 ・中和の量的関係を数式で表すことができる。 ・滴定曲線におけるpH変化、中和点、使用できる指示薬について判断することができる。
						主体的に学習に取り組む態度	・酸と塩基の反応に関する課題に取り組み、提出する。
12 1 2 3	第2編 物質の変化	第3章 酸化還元反応	後期末まで	電子の授受で酸化・還元を考え、酸化数の考え方を知ること、理解を深める。 電池の化学反応もあわせて学習する。	知識・技能	・電子の授受により酸化還元反応を理解する。 ・酸化還元反応の進行を、色の変化などの視覚的な情報をもとに判断する。 ・酸化数の求め方を知る。 ・金属のイオン化は酸化還元反応であることをしる。 ・通常の酸と反応する金属と、酸化力をもつ酸とのみ反応する金属との違いを理解する。 ・金属の製錬の方法について理解する。	
				①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤 ③金属の酸化還元反応 ④酸化還元反応の利用	思考・判断・表現	・酸化反応と還元反応を区別することができる。 ・酸化還元反応の量的関係を求めることができる。 ・酸化還元反応の化学反応式を、酸化剤・還元剤のはたらきを示す反応式からつくることができる。 ・酸化剤と還元剤のはたらきを、電子の授受に着目して説明することができる。 ・金属の性質をイオン化傾向で考えることができる。 ・電池の基本的なしくみについて、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明することができる。	
						主体的に学習に取り組む態度	・酸化還元反応に関する課題に取り組み、提出する。
	終章	化学が拓く世界	物質の特徴や化学変化が、食品保存、化粧品、浄水場など様々な場面の技術と結びついていることを知ること、理解をさらに深める。	知識・技能	・化学基礎で学習した内容と環境問題との結びつきについて理解する。		
				思考・判断・表現	・私たちの暮らしを支える技術と化学の結びつきについて説明することができる。		
主体的に学習に取り組む態度				・くらしと化学の結びつきに関する課題に取り組む。			
合計時数			60				

2023 年度

理 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	化学基礎	単位数	2	週時間数	4	年次・コース・組	2年次理系
使用教材	化学基礎(数研出版)						

目 標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解する。 (2)観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化の学習に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、充分にできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、充分に身につけている。	自ら学習を調整し、粘り強く学習に取り組んでいる。
	ステップ2 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、概ねできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、概ね身につけている。	自ら学習を調整し、学習に取り組んでいる。
	ステップ1 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、不十分である。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などが、不十分である。	学習への取り組みが不十分である。
評価方法	定期試験(知識を重視した問題)発言	定期試験(思考を重視した恩台)発言	提出物 授業や課題への取り組み 発言

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

- ・授業は各クラス毎に行う。学習の進み具合に応じ、クラスによって学習内容が異なることもありうる。
- ・必要に応じて、実験観察の場面や話し合いの場面を設定する。
- ・大きなまとまりごとに、学習内容の振り返りと自己評価を行う。
- ・生徒実験の際はレポートを作成する。
- ・理解の程度を確認し、思考力を伸ばすための学習課題を適宜与える。

担当者より

私たちは環境問題を避けて生きることができません。したがって、日常生活と化学との関わりは進路を問わず重要なものです。「化学基礎」では、身近な化学物質ならびに基本的な化学の知識について学び、後期からの「化学」の学習につなげていきます。

学習計画

月	単 元 名		予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4 5	序章	化学の特徴	前期中間 Ⅰ まで	化学的なものの見 方や考え方につ いて学ぶ。	知識・技能	・実験器具の使い方を知る。 ・試薬取扱の留意事項を知る。 ・実験器具や試薬を正しく使用することができる。
				①探究とは ②実験を行うにあ たって	思考・判断・表現	・実験器具の使い方を区別することができる。 ・実験結果を分析・考察することができる。
					主体的に学習に 取り組む態度	・身近な出来事に関心をもち、その内容を伝える。 ・積極的かつ丁寧な態度で授業に参加することができる。
	第1編 物質の 構成と化学結 合	第1章 物質の 構成		特徴的な物質を 整理・分類し、共 通した要素や個々 の相違点を考える ことで、物質の成 りたちを追求す る。	知識・技能	・混合物を分離する方法をあげる。 ・実際に混合物を分離する。 ・炭素、酸素、リン、硫黄の同素体をあげる。 ・代表的な成分元素について検出法を理解する。 ・物質の状態と熱運動の関係を理解する。 ・物理変化と化学変化の違いを理解する。
				①純物質と混合 物 ②物質とその成分 ③物質の三態と 熱運動	思考・判断・表現	・純物質と混合物の違いを説明することができる。 ・物質を分離する操作について説明することができる。 ・いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。 ・物質を加熱したり冷却したりしたときの温度変化をグラフに表す ことができる。
					主体的に学習に 取り組む態度	・物質の構成に関する課題に取り組み、提出する。
第1編 物質の 構成と化学結 合	第2章物質の 構成粒子	物質を構成する基 礎的な粒子である 原子と、原子から 生じるイオンにつ いて、その構造や 表し方、それらの 関係を学ぶ。	知識・技能	・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量 の関係について理解する。 ・単原子イオンの電子配置と表し方を知る。 ・イオン化エネルギーの概念を理解する。 ・元素の典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性などの分布およ び同族元素について理解する。		
		①原子とその構造 ②イオン ③周期表	思考・判断・表現	・原子がどのような粒子から構成されているかを説明することが できる。 ・安定な電子配置について説明することができる。 ・価電子の数と化学的性質の関連について説明することができ る。		
			主体的に学習に 取り組む態度	・物質の構成粒子に関する課題に取り組み、提出する。		
6	第1編 物質の 構成と化学結 合	第3章 粒子の 結合	前期中間 Ⅱ まで	物質を構成する粒 子がどのような みで結合している かについて、中学 校での学習を基に さらに詳しく扱う。 物質の性質との 関連も同時に学 ぶ。	知識・技能	・主な物質の名称を知る。 ・主な物質を組成式又は分子式で表す。 ・イオン結晶の特徴を示す。 ・主な分子を電子式、構造式で表す。 ・配位結合について理解する。 ・極性について理解する。 ・高分子化合物の成りたちを理解する。 ・共有結合結晶の具体例とその性質を理解する。 ・金属の特徴を示す。
				①イオン結合とイ オン結晶 ②共有結合と分 子 ③配位結合 ④分子間にはたら く力 ⑤高分子化合物 ⑥共有結合の結 晶 ⑦金属結合と金 属結晶	思考・判断・表現	・イオン結晶の性質について説明することができる。 ・塩化アンモニウム結晶に含まれる結合を説明することができ る。 ・分子を極性分子と無極性分子に分類できる。 ・分子間力や分子結晶の性質を説明することができる。 ・付加重合や縮合重合について説明することができる。 ・ダイヤモンドと黒鉛の性質の違いを説明することができる。
					主体的に学習に 取り組む態度	・粒子の結合に関する課題に取り組み、提出する。
	第2編 物質の 変化	第1章 物質量 と化学反応式		物質の質量と、物 質を構成する原 子・分子・イオンな どの質量や数との 関係や、気体の体 積との関係を学 び、化学の学習に 欠かすことのでき ない物質量の考 え方を身につけ ①原子量・分子 量・式量 ②物質質量 ③溶液の濃度 ④化学反応式と 物質質量	知識・技能	・原子量・分子量・式量を求める。 ・物質量の考え方を理解する。 ・いろいろな濃度の表し方を知る。 ・目的の濃度の水溶液を調製する。 ・化学反応を化学反応式で表す。 ・化学反応における量的な関係を化学反応式から読み取る。 ・原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学 び、化学の基礎法則を理解する。
					思考・判断・表現	・粒子の数・質量・気体の体積、及び物質量を相互に換算するこ とができる。 ・2種類の濃度の換算ができる。 ・化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積 変化でとらえることができる。 ・化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。
					主体的に学習に 取り組む態度	・物質量と化学反応式に関する課題に取り組み、提出する。

7 8	第2編 物質の変化	第2章 酸と塩基の反応	前期末まで	酸・塩基の定義や酸性・塩基性の本質、酸性・塩基性の強さの表し方を学ぶ。 また、中和の量的関係、及び塩の水溶液の液性について学ぶ。	知識・技能	・酸・塩基の価数、電離度などを理解する。 ・中和の意味を理解する。 ・水溶液中のH ⁺ の濃度をpHで表すことができる方法を理解する。 ・中和反応を化学反応式で表すことができる。 ・酸性塩・塩基性塩・正塩の分類について理解する。 ・未知の酸や塩基の濃度を、中和滴定により決定する。 ・中和滴定で使用する器具を正しく扱う。
				①酸・塩基 ②水素イオン濃度とpH ③中和反応と塩 ④中和滴定	思考・判断・表現	・中和の意味に基づいて酸と塩基を見極めることができる。 ・pHの値から酸性、塩基性の強弱が判断することができる。 ・OH ⁻ 濃度からpHを求めることができる。 ・塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断することができる。 ・中和の量的関係を数式で表すことができる。 ・滴定曲線におけるpH変化、中和点、使用できる指示薬について判断することができる。
					主体的に学習に取り組む態度	・酸と塩基の反応に関する課題に取り組み、提出する。
9	第2編 物質の変化	第3章 酸化還元反応	電子の授受で酸化・還元を考え、酸化数の考え方を知ること、理解を深める。 電池の化学反応もあわせて学習する。	知識・技能	・電子の授受により酸化還元反応を理解する。 ・酸化還元反応の進行を、色の変化などの視覚的な情報をもとに判断する。 ・酸化数の求め方を知る。 ・金属のイオン化は酸化還元反応であることをしる。 ・通常の酸と反応する金属と、酸化力をもつ酸とのみ反応する金属との違いを理解する。 ・金属の製錬の方法について理解する。	
				①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤 ③金属の酸化還元反応 ④酸化還元反応の利用	思考・判断・表現	・酸化反応と還元反応を区別することができる。 ・酸化還元反応の量的関係を求めることができる。 ・酸化還元反応の化学反応式を、酸化剤・還元剤のはたらきを示す反応式からつくることができる。 ・酸化剤と還元剤のはたらきを、電子の授受に着目して説明することができる。 ・金属の性質をイオン化傾向で考えることができる。 ・電池の基本的なしくみについて、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明することができる。
					主体的に学習に取り組む態度	・酸化還元反応に関する課題に取り組み、提出する。
	終章	化学が拓く世界	物質の特徴や化学変化が、食品保存、化粧品、浄水場など様々な場面の技術と結びついていることを知ること、理解をさらに深める。	知識・技能	・化学基礎で学習した内容と環境問題との結びつきについて理解する。	
				思考・判断・表現	・私たちの暮らしを支える技術と化学の結びつきについて説明することができる。	
				主体的に学習に取り組む態度	・くらしと化学の結びつきに関する課題に取り組む。	
合計時数						

科目	化学基礎	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次文系
使用教材	化学基礎(数研出版)						

目 標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解する。 (2)観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化の学習に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
↑ 評価 規 準	ステップ 3 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、充分にできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、充分に身につけている。	自ら学習を調整し、粘り強く学習に取り組んでいる。
	ステップ 2 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、概ねできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、概ね身につけている。	自ら学習を調整し、学習に取り組んでいる。
	ステップ 1 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、不十分である。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などが、不十分である。	学習への取り組みが不十分である。
評価方法	定期試験(知識を重視した問題)発言	定期試験(思考を重視した問題)発言	提出物 授業や課題への取り組み 発言

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

・授業は各クラス毎に行う。学習の進み具合に応じ、クラスによって学習内容が異なることもありうる。 ・必要に応じて、実験観察の場面や話し合いの場面を設定する。 ・大きなまとまりごとに、学習内容の振り返りと自己評価を行う。 ・生徒実験の際はレポートを作成する。 ・理解の程度を確認し、思考力を伸ばすための学習課題を適宜与える。
--

担当者より

私たちは環境問題を避けて生きることができません。したがって、日常生活と化学との関わりは文系の生徒にとっても重要なものです。「化学基礎」では、1年間を通して、身近な化学物質ならびに基本的な化学の知識について学んでいきます。
--

学習計画

月	単 元 名		予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4 5	序章	化学の特徴	前期中間 I まで	化学的なものの見 方や考え方につ いて学ぶ。	知識・技能 ・実験器具の使い方を知る。 ・試薬取扱の留意事項を知る。 ・実験器具や試薬を正しく使用することができる。	
				①探究とは ②実験を行うにあ たって	思考・判断・表現 ・実験器具の使い方を区別することができる。 ・実験結果を分析・考察することができる。	
				主体的に学習に 取り組む態度	・身近な出来事に関心をもち、その内容を伝える。 ・積極的かつ丁寧な態度で授業に参加することができる。	
	第1編 物質の 構成と化学結 合	第1章 物質の 構成	10	特徴的な物質を 整理・分類し、共 通した要素や個々 の相違点を考える ことで、物質の成 りたちを追求す る。	知識・技能 ・混合物を分離する方法をあげる。 ・実際に混合物を分離する。 ・炭素、酸素、リン、硫黄の同素体をあげる。 ・代表的な成分元素について検出法を理解する。 ・物質の状態と熱運動の関係を理解する。 ・物理変化と化学変化の違いを理解する。	
				①純物質と混合 物 ②物質とその成分 ③物質の三態と 熱運動	思考・判断・表現 ・純物質と混合物の違いを説明することができる。 ・物質を分離する操作について説明することができる。 ・いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。 ・物質を加熱したり冷却したりしたときの温度変化をグラフに表す ことができる。	
				主体的に学習に 取り組む態度	・物質の構成に関する課題に取り組み、提出する。	
6	第1編 物質の 構成と化学結 合	第2章物質の 構成粒子	前期中間 II まで	物質を構成する基 礎的な粒子である 原子と、原子から 生じるイオンにつ いて、その構造や 表し方、それらの 関係を学ぶ。	知識・技能 ・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量 の関係について理解する。 ・単原子イオンの電子配置と表し方を知る。 ・イオン化エネルギーの概念を理解する。 ・元素の典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性などの分布およ び同族元素について理解する。	
				①原子とその構造 ②イオン ③周期表	思考・判断・表現 ・原子がどのような粒子から構成されているかを説明することが できることができる。 ・安定な電子配置について説明することができる。 ・価電子の数と化学的性質の関連について説明することができる。	
				主体的に学習に 取り組む態度	物質の構成粒子に関する課題に取り組み、提出する。	
	第1編 物質の 構成と化学結 合	第3章 粒子の 結合	8	物質を構成する粒 子がどのようなし くみで結合してい るのかについて、中 学校での学習を基 にさらに詳しく扱う。 物質の性質との 関連も同時に学 ぶ。	知識・技能 ・主な物質の名称を知る。 ・主な物質を組成式又は分子式で表す。 ・イオン結晶の特徴を示す。 ・主な分子を電子式、構造式で表す。 ・配位結合について理解する。 ・極性について理解する。 ・高分子化合物の成りたちを理解する。 ・共有結合結晶の具体例とその性質を理解する。 ・金属の特徴を示す。	
				①イオン結合とイ オン結晶 ②共有結合と分 子 ③配位結合 ④分子間にはた らく力 ⑤高分子化合物 ⑥共有結合の結 晶 ⑦金属結合と金 属結晶	思考・判断・表現 ・イオン結晶の性質について説明することができる。 ・塩化アンモニウム結晶に含まれる結合を説明することがで きる。 ・分子を極性分子と無極性分子に分類できる。 ・分子間力や分子結晶の性質を説明することができる。 ・付加重合や縮合重合について説明することができる。 ・ダイヤモンドと黒鉛の性質の違いを説明することができる。	
				主体的に学習に 取り組む態度	・粒子の結合に関する課題に取り組み、提出する。	
7 8 9	第2編 物質の 変化	第1章 物質 量と化学反応式	前期末ま で	物質の質量と、物 質を構成する原 子・分子・イオン などの質量や数と の関係や、気体の 体積との関係を学 び、化学の学習に 欠かすことので きない物質の考 え方を身につけ ①原子量・分子 量・式量 ③物質 ④溶液の濃度 ④化学反応式と 物質	知識・技能 ・原子量・分子量・式量を求める。 ・物質の考え方を理解する。 ・いろいろな濃度の表し方を知る。 ・目的の濃度の水溶液を調製する。 ・化学反応を化学反応式で表す。 ・化学反応における量的な関係を化学反応式から読み取る。 ・原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学 び、化学の基礎法則を理解する。	
				①原子量・分子 量・式量 ③物質 ④溶液の濃度 ④化学反応式と 物質	思考・判断・表現 ・粒子の数・質量・気体の体積、及び物質を相互に換算するこ とができる。 ・2種類の濃度の換算ができる。 ・化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積 変化でとらえることができる。 ・化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。	
			12	主体的に学習に 取り組む態度	物質量と化学反応式に関する課題に取り組み、提出する。	

10 11	第2編 物質の変化	第2章 酸と塩基の反応	後期中間まで	酸・塩基の定義や酸性・塩基性の本質、酸性・塩基性の強さの表し方を学ぶ。 また、中和の量的関係、及び塩の水溶液の液性について学ぶ。	知識・技能	・酸・塩基の価数、電離度を理解する。 ・中和の意味を理解する。 ・水溶液中のH ⁺ の濃度をpHで表すことができる方法を理解する。 ・中和反応を化学反応式で表すことができる。 ・酸性塩・塩基性塩・正塩の分類について理解する。 ・未知の酸や塩基の濃度を、中和滴定により決定する。 ・中和滴定で使用する器具を正しく扱う。	
				14	①酸・塩基 ②水素イオン濃度とpH ③中和反応と塩 ④中和滴定	思考・判断・表現	・中和の意味に基づいて酸と塩基を見極めることができる。 ・pHの値から酸性、塩基性の強弱が判断することができる。 ・OH ⁻ 濃度からpHを求めることができる。 ・塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断することができる。 ・中和の量的関係を数式で表すことができる。 ・滴定曲線におけるpH変化、中和点、使用できる指示薬について判断することができる。
						主体的に学習に取り組む態度	・酸と塩基の反応に関する課題に取り組み、提出する。
12 1 2 3	第2編 物質の変化	第3章 酸化還元反応	後期末まで	電子の授受で酸化・還元を考え、酸化数の考え方を知ること、理解を深める。 電池の化学反応もあわせて学習する。	知識・技能	・電子の授受により酸化還元反応を理解する。 ・酸化還元反応の進行を、色の変化などの視覚的な情報をもとに判断する。 ・酸化数の求め方を知る。 ・金属のイオン化は酸化還元反応であることをしる。 ・通常の酸と反応する金属と、酸化力をもつ酸とのみ反応する金属との違いを理解する。 ・金属の製錬の方法について理解する。	
				16	①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤 ③金属の酸化還元反応 ④酸化還元反応の利用	思考・判断・表現	・酸化反応と還元反応を区別することができる。 ・酸化還元反応の量的関係を求めることができる。 ・酸化還元反応の化学反応式を、酸化剤・還元剤のはたらきを示す反応式からつくることができる。 ・酸化剤と還元剤のはたらきを、電子の授受に着目して説明することができる。 ・金属の性質をイオン化傾向で考えることができる。 ・電池の基本的なしくみについて、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明することができる。
						主体的に学習に取り組む態度	・酸化還元反応に関する課題に取り組み、提出する。
	終章	化学が拓く世界	16	物質の特徴や化学変化が、食品保存、化粧品、浄水場など様々な場面の技術と結びついていることを知ること、理解をさらに深める。	知識・技能	・化学基礎で学習した内容と環境問題との結びつきについて理解する。	
					思考・判断・表現	・私たちの暮らしを支える技術と化学の結びつきについて説明することができる。	
					主体的に学習に取り組む態度	・くらしと化学の結びつきに関する課題に取り組む。	
合計時数			60				

科目	化学基礎	単位数	2	週時間数	4	年次・コース・組	2年次理系
使用教材	化学基礎(数研出版)						

目 標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解する。 (2)観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化の学習に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、十分にできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、十分に身につけている。	自ら学習を調整し、粘り強く学習に取り組んでいる。
	ステップ2 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、概ねできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、概ね身につけている。	自ら学習を調整し、学習に取り組んでいる。
	ステップ1 物質とその変化に関する知識、並びに実験操作の基本的な技能の習得が、不十分である。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などが、不十分である。	学習への取り組みが不十分である。
評価方法	定期試験(知識を重視した問題)発言	定期試験(思考を重視した恩)台)発言	提出物 授業や課題への取り組み 発言

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

・授業は各クラス毎に行う。学習の進み具合に応じ、クラスによって学習内容が異なることもありうる。 ・必要に応じて、実験観察の場面や話し合いの場面を設定する。 ・大きなまとまりごとに、学習内容の振り返りと自己評価を行う。 ・生徒実験の際はレポートを作成する。 ・理解の程度を確認し、思考力を伸ばすための学習課題を適宜与える。
--

担当者より

私たちは環境問題を避けて生きることができません。したがって、日常生活と化学との関わりは進路を問わず重要なものです。「化学基礎」では、身近な化学物質ならびに基本的な化学の知識について学び、後期からの「化学」の学習につなげていきます。

学習計画

月	単 元 名		予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い			実施時数
4 5	序章	化学の特徴	前期中間 I まで	化学的なものの 見方や考え方について学ぶ。	知識・技能	・実験器具の使い方を知る。 ・試薬取扱の留意事項を知る。 ・実験器具や試薬を正しく使用することができる。	
				①探究とは ②実験を行うにあたって	思考・判断・表現	・実験器具の使い方を区別することができる。 ・実験結果を分析・考察することができる。	
					主体的に学習に取り組む態度	・身近な出来事に関心をもち、その内容を伝える。 ・積極的かつ丁寧な態度で授業に参加することができる。	
	第1編 物質の構成と化学結合	第1章 物質の構成		特徴的な物質を整理・分類し、共通した要素や個々の相違点を考えることで、物質の成りたちを追求する。	知識・技能	・混合物を分離する方法をあげる。 ・実際に混合物を分離する。 ・炭素、酸素、リン、硫黄の同素体をあげる。 ・代表的な成分元素について検出法を理解する。 ・物質の状態と熱運動の関係を理解する。 ・物理変化と化学変化の違いを理解する。	
				①純物質と混合物 ②物質とその成分 ③物質の三態と熱運動	思考・判断・表現	・純物質と混合物の違いを説明することができる。 ・物質を分離する操作について説明することができる。 ・いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。 ・物質を加熱したり冷却したりしたときの温度変化をグラフに表すことができる。	
					主体的に学習に取り組む態度	・物質の構成に関する課題に取り組み、提出する。	
6	第1編 物質の構成と化学結合	第2章物質の構成粒子	前期中間 II まで	物質を構成する基礎的な粒子である原子と、原子から生じるイオンについて、その構造や表し方、それらの関係を学ぶ。	知識・技能	・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解する。 ・単原子イオンの電子配置と表し方を知る。 ・イオン化エネルギーの概念を理解する。 ・元素の典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性などの分布および同族元素について理解する。	
				①原子とその構造 ②イオン ③周期表	思考・判断・表現	・原子がどのような粒子から構成されているかを説明することができる。 ・安定な原子について電子配置に基づいて説明することができる。 ・価電子の数と化学的性質の関連について説明することができる。	
					主体的に学習に取り組む態度	・物質の構成粒子に関する課題に取り組み、提出する。	
	第1編 物質の構成と化学結合	第3章 粒子の結合		物質を構成する粒子がどのようなしくみで結合しているかについて、中学校での学習を基にさらに詳しく扱う。物質の性質との関連も同時に学ぶ。	知識・技能	・主な物質の名称を知る。 ・主な物質を組成式又は分子式で表す。 ・イオン結晶の特徴を示す。 ・主な分子を電子式、構造式で表す。 ・配位結合について理解する。 ・極性について理解する。 ・高分子化合物の成りたちを理解する。 ・共有結合結晶の具体例とその性質を理解する。 ・金属の特徴を示す。	
				①イオン結合とイオン結晶 ②共有結合と分子 ③配位結合 ④分子間にはたらく力 ⑤高分子化合物 ⑥共有結合の結晶 ⑦金属結合と金属結晶	思考・判断・表現	・イオン結晶の性質について説明することができる。 ・塩化アンモニウム結晶に含まれる結合を説明することができる。 ・分子を極性分子と無極性分子に分類できる。 ・分子間力や分子結晶の性質を説明することができる。 ・付加重合や縮合重合について説明することができる。 ・ダイヤモンドと黒鉛の性質の違いを説明することができる。	
					主体的に学習に取り組む態度	・粒子の結合に関する課題に取り組み、提出する。	
	第2編 物質の変化	第1章 物質質量と化学反応式		物質の質量と、物質を構成する原子・分子・イオンなどの質量や数との関係や、気体の体積との関係を学び、化学の学習に欠かすことのできない物質質量の考え方を身につける。	知識・技能	・原子量・分子量・式量を求める。 ・物質量の考え方を理解する。 ・いろいろな濃度の表し方を知る。 ・目的の濃度の水溶液を調製する。 ・化学反応を化学反応式で表す。 ・化学反応における量的な関係を化学反応式から読み取る。 ・原子説の発見、分子説の発見にいたる物質探究の歴史を学び、化学の基礎法則を理解する。	
				①原子量・分子量・式量 ②物質質量 ③溶液の濃度 ④化学反応式と物質質量	思考・判断・表現	・粒子の数・質量・気体の体積、及び物質量を相互に換算することができる。 ・2種類の濃度の換算ができる。 ・化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 ・化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。	
					主体的に学習に取り組む態度	・物質質量と化学反応式に関する課題に取り組み、提出する。	

7 8	第2編 物質の変化	第2章 酸と塩基の反応	前期末まで	酸・塩基の定義や酸性・塩基性の本質、酸性・塩基性の強さの表し方を学ぶ。 また、中和の量的関係、及び塩の水溶液の液性について学ぶ。	知識・技能	・酸・塩基の価数、電離度などを理解する。 ・中和の意味を理解する。 ・水溶液中のH ⁺ の濃度をpHで表すことができる方法を理解する。 ・中和反応を化学反応式で表すことができる。 ・酸性塩・塩基性塩・正塩の分類について理解する。 ・未知の酸や塩基の濃度を、中和滴定により決定する。 ・中和滴定で使用する器具を正しく扱う。
				①酸・塩基 ②水素イオン濃度とpH ③中和反応と塩 ④中和滴定	思考・判断・表現	・中和の意味に基づいて酸と塩基を見極めることができる。 ・pHの値から酸性、塩基性の強弱が判断することができる。 ・OH ⁻ 濃度からpHを求めることができる。 ・塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断することができる。 ・中和の量的関係を数式で表すことができる。 ・滴定曲線におけるpH変化、中和点、使用できる指示薬について判断することができる。
				主体的に学習に取り組む態度	・酸と塩基の反応に関する課題に取り組み、提出する。	
9	第2編 物質の変化	第3章 酸化還元反応	電子の授受で酸化・還元を考え、酸化数の考え方を知ること、理解を深める。 電池の化学反応もあわせて学習する。	知識・技能	・電子の授受により酸化還元反応を理解する。 ・酸化還元反応の進行を、色の変化などの視覚的な情報をもとに判断する。 ・酸化数の求め方を知る。 ・金属のイオン化は酸化還元反応であることをしる。 ・通常の酸と反応する金属と、酸化力をもつ酸とのみ反応する金属との違いを理解する。 ・金属の製錬の方法について理解する。	
				思考・判断・表現	・酸化反応と還元反応を区別することができる。 ・酸化還元反応の量的関係を求めることができる。 ・酸化還元反応の化学反応式を、酸化剤・還元剤のはたらきを示す反応式からつくることができる。 ・酸化剤と還元剤のはたらきを、電子の授受に着目して説明することができる。 ・金属の性質をイオン化傾向で考えることができる。 ・電池の基本的なしくみについて、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明することができる。	
				主体的に学習に取り組む態度	・酸化還元反応に関する課題に取り組み、提出する。	
	終章	化学が拓く世界	物質の特徴や化学変化が、食品保存、化粧品、浄水場など様々な場面の技術と結びついていることを知ること、理解をさらに深める。	知識・技能	・化学基礎で学習した内容と環境問題との結びつきについて理解する。	
				思考・判断・表現	・私たちの暮らしを支える技術と化学の結びつきについて説明することができる。	
				主体的に学習に取り組む態度	・くらしと化学の結びつきに関する課題に取り組む。	
合計時数						

2023 年度

理 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	化学	単位数	2	週時間数	4	年次・コース・組	2年次理系
使用教材	化学(数研出版)						

目 標	(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 (2) 観察、実験などに関する技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。 (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 化学の基本的な概念や原理・法則の理解、並びに基本的な実験技能の習得が、十分にできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、十分に身につけている。	自ら学習を調整し、粘り強く学習に取り組んでいる。
	ステップ 2 化学の基本的な概念や原理・法則の理解、並びに基本的な実験技能の習得が、概ねできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、概ね身につけている。	自ら学習を調整し、学習に取り組んでいる。
	ステップ 1 化学の基本的な概念や原理・法則の理解、並びに基本的な実験技能の習得が、不十分である。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などが、不十分である。	学習への取り組みが不十分である。
評価方法	定期試験(知識を重視した問題)発言	定期試験(思考を重視した問題)発言	提出物 授業や課題への取り組み 発言

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

- ・授業は各クラス毎に行う。学習の進み具合に応じ、クラスによって学習内容が異なることもありうる。
- ・必要に応じて、実験観察の場面や話し合いの場面を設定する。
- ・大きなまとまりごとに、学習内容の振り返りと自己評価を行う。
- ・生徒実験の際はレポートを作成する。
- ・理解の程度を確認し、思考力を伸ばすための学習課題を適宜与える。

担当者より

「化学」では、2年前期の「化学基礎」の学習内容を基に、様々な物質と化学の知識について学びます。社会と化学の関連を知るためには、量的関係など数値的な捉え方が極めて重要です。3年前期まで1年間かけて学んでいきます。

学習計画

月	単 元 名		予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
10	第1編 物質の状態	第1章 固体の構造	(2年)後期中間まで	イオン結合, 共有結合, 金属結合でできた物質についての知識を基に, 固体の結晶格子の概念とそれぞれの結晶の構造について理解する。	知識・技能 ・単位格子や配位数について理解する。 ・アモルファス金属の特徴を理解する。 ・金属の結晶格子の名称や配位数, 単位格子中の原子の数, 充填率について理解する。 ・NaCl型, CsCl型, ZnS型結晶格子の, 配位数, 単位格子中のイオンの数, 組成式について理解する。 ・分子間力にはファンデルワールス力や水素結合があることを理解する。 ・分子間力と物質の沸点の関係を理解する。 ・ダイヤモンドの結晶格子について, 配位数, 単位格子中の炭素原子の数について理解する。	
				①結晶とアモルファス ②金属結晶 ③イオン結晶 ④分子間力と分子結晶 ⑤共有結合の結晶	思考・判断・表現 ・単位格子の一边の長さから金属の原子半径を求めることができる。 ・結晶の密度を求めることができる。 ・水素化合物の分子量と沸点の関係を理解する。 ・ダイヤモンドと黒鉛の性質について, 結晶構造に基づきながら説明することができる。	
					主体的に学習に取り組む態度 ・固体の構造に関する課題に取り組み, 提出することができる。	
	第1編 物質の状態	第2章 物質の状態変化		状態変化に伴うエネルギーの出入りや化学結合と融点・沸点の関係を理解するとともに, 気液平衡や蒸気圧, 状態図についても理解する。	知識・技能 ・熱運動と温度の関係について理解する。 ・状態変化の際に放出または吸収するエネルギーの名称を知る。 ・加熱曲線における物質の状態について理解する。 ・粒子間にはたらく力の大小について理解する。 ・大気圧に関して, 単位を含めて理解する。 ・気液平衡の考え方を理解する。 ・蒸気圧曲線, および蒸気圧と沸騰の関係について理解する。 ・状態図については理解し, それぞれの曲線や点の名称を知る。	
11	第1編 物質の状態	第3章 気体		①粒子の熱運動 ②三態の変化とエネルギー ③気液平衡と蒸気圧	思考・判断・表現 ・加熱による物質の温度変化を表した図において, 融解熱や蒸発熱にあたる部分を判断することができる。 ・加熱曲線のグラフの形について説明することができる。 ・状態変化に必要な熱量を計算する。 ・蒸気圧曲線から物質の蒸気圧や沸点を判断することができる。 ・状態図を用いることで, ある温度・圧力における物質の状態を判断することができる。	
					主体的に学習に取り組む態度 ・物質の状態変化に関する課題に取り組み, 提出することができる。	
				気体の諸法則および分子量計算, また, 混合気体に対する考え方や実在気体と理想気体の違いについて理解する。	知識・技能 ・ボイルの法則, シャルルの法則, ボイル・シャルルの法則を理解する。 ・気体の状態方程式について理解する。 ・分圧の法則, 並びに分圧と体積やモル分率の関係を理解する。 ・混合気体の分圧や全圧を求めることができる。 ・理想気体と実在気体の違いについて理解する。	
				①気体の体積 ②気体の状態方程式 ③混合気体の圧力 ④実在気体	思考・判断・表現 ・気体の諸法則を適切に用い, 気体の圧力や体積, 温度を求めることができる。 ・理想気体の状態方程式を応用して, 気体の分子量や密度を求めることができる。 ・モル分率を用いて平均分子量を求めることができる。 ・水上置換で捕集した気体の分圧を求めることができる。	
12	第1編 物質の状態	第4章 溶液	(2年)後期末まで		主体的に学習に取り組む態度 ・気体の性質に関する課題に取り組み, 提出することができる。	
				溶解のしくみを理解するとともに, 固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。また, 希薄溶液とその性質やコロイド溶液の性質について, 身近な現象と結びつけながら理解する。	知識・技能 ・水和について理解する。 ・溶解平衡について理解する。 ・溶解度や再結晶について理解する。 ・ヘンリーの法則について理解する。 ・質量モル濃度の求め方を理解する。 ・希薄溶液の蒸気圧降下, 沸点上昇, 凝固点降下, 浸透圧という現象を理解する。 ・冷却曲線と過冷却について理解する。 ・コロイドの分類について理解する。 ・コロイド溶液が示す特徴的な現象について理解する。 ・親水コロイドと疎水コロイドの沈殿について理解する。	
				①溶解とそのしくみ ②溶解度 ③希薄溶液の性質 ④コロイド溶液	思考・判断・表現 ・物質を電解質や非電解質に分けることができる。 ・分子の水への溶解の可否を判断することができる。 ・水和水をもつ物質の溶解量を求めることができる。 ・ヘンリーの法則を用いて, 気体の溶解量を求めることができる。 ・質量パーセント濃度やモル濃度, 質量モル濃度の計算, 並びにその換算することができる。 ・沸点上昇度や凝固点降下度を求めることができる。 ・沸点上昇や凝固点降下, 浸透圧を利用して分子量を求めることができる。 ・コロイド溶液に起こる現象から, そのコロイドの性質や特徴について判断することができる。 ・保護コロイドについて説明することができる。	
					主体的に学習に取り組む態度 ・溶液の性質に関する課題に取り組み, 提出することができる。	
1	第2編 物質の変化	第1章 化学反応とエネルギー		物質のもつ化学エネルギーの差をエンタルピー変化として記述することを学び, さらにヘスの法則の利用について理解する。また, 光の発生や吸収を伴う反応があることを理解する。	知識・技能 ・化学反応に伴って放出または吸収する熱量をエンタルピー変化を用いて表すことを理解する。 ・エンタルピー変化を付した反応式とエンタルピー変化を表した図を理解し, それぞれを作る。 ・反応エンタルピーの種類を理解する。 ・ヘスの法則を理解する。 ・結合エネルギーの定義について理解する。 ・化学反応には, 光を放出または吸収するものもあることを理解する。 ・光が関わる具体的な化学反応や現象を理解する。	
				①化学反応と熱 ②ヘスの法則 ③化学反応と光	思考・判断・表現 ・エンタルピー変化を付した反応式を書いたり, 反応エンタルピーを求めたりする。 ・ヘスの法則を利用して, 目的のエンタルピー変化を求めることができる。 ・光が関わる化学反応や現象について, エンタルピー変化の正負や反応名, 現象名が判断することができる。	
					主体的に学習に取り組む態度 ・化学反応とエネルギーに関する課題に取り組み, 提出することができる。	

2 3	第2編 物質の 変化	第2章 電池と 電気分解		電気エネルギーを取り出す電池のしくみ、並びに電気エネルギーを利用した電気分解の反応について理解する。	知識・技能	- 電池のしくみとダニエル電池について理解する。 - 鉛蓄電池、燃料電池の構造や両極で起こる反応式について理解する。 - 実用電池の具体例を理解する。 - 電気分解の陽極で酸化反応が、陰極で還元反応が起こることを理解する。 - 水溶液の電気分解において陽極および陰極で具体的に起こる反応を理解する。 - ファラデーの法則を理解する。 - 電気分解の工業的な利用について理解する。	
				①電池 ②電気分解	思考・判断・表現	- 電池の両極での反応式を用いて、物質質量などの量的な計算ができる。 - 電気分解において発生する物質を判断することができる。 - 電気分解した際の陽極および陰極での反応を反応式で書くことができる。 - ファラデーの法則に基づき、電気分解の量的関係を計算することができる。	
					主体的に学習に取り組む態度	電池と電気分解に関する課題に取り組み、提出することができる。	

2023 年度

理 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	化学	単位数	2	週時間数	4	年次・コース・組	2年次理系
使用教材	化学(数研出版)						

目 標	(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 (2) 観察、実験などに関する技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。 (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 化学の基本的な概念や原理・法則の理解、並びに基本的な実験技能の習得が、十分にできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、十分に身につけている。	自ら学習を調整し、粘り強く学習に取り組んでいる。
	ステップ2 化学の基本的な概念や原理・法則の理解、並びに基本的な実験技能の習得が、概ねできている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを、概ね身につけている。	自ら学習を調整し、学習に取り組んでいる。
	ステップ1 化学の基本的な概念や原理・法則の理解、並びに基本的な実験技能の習得が、不十分である。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などが、不十分である。	学習への取り組みが不十分である。
評価方法	定期試験(知識を重視した問題)発言	定期試験(思考を重視した問題)発言	提出物 授業や課題への取り組み 発言

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

- ・授業は各クラス毎に行う。学習の進み具合に応じ、クラスによって学習内容が異なることもありうる。
- ・必要に応じて、実験観察の場面や話し合いの場面を設定する。
- ・大きなまとまりごとに、学習内容の振り返りと自己評価を行う。
- ・生徒実験の際はレポートを作成する。
- ・理解の程度を確認し、思考力を伸ばすための学習課題を適宜与える。

担当者より

「化学」では、2年前期の「化学基礎」の学習内容を基に、様々な物質と化学の知識について学びます。社会と化学の関連を知るためには、量的関係など数値的な捉え方が極めて重要です。3年前期まで1年間かけて学んでいきます。

学習計画

月	単 元 名		予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
10	第1編 物質の状態	第1章 固体の構造	(2年) 後期中間まで	イオン結合、共有結合、金属結合でできた物質についての知識を基に、固体の結晶格子の概念とそれぞれの結晶の構造について理解する。	知識・技能	・単位格子や配位数について理解する。 ・アモルファス金属の特徴を理解する。 ・金属の結晶格子の名称や配位数、単位格子中の原子の数、充填率について理解する。 ・NaCl型、CsCl型、ZnS型結晶格子の、配位数、単位格子中のイオンの数、組成式について理解する。 ・分子間力にはファンデルワールス力や水素結合があることを理解する。 ・分子間力と物質の沸点の関係を理解する。 ・ダイヤモンドの結晶格子について、配位数、単位格子中の炭素原子の数について理解する。
				①結晶とアモルファス ②金属結晶 ③イオン結晶 ④分子間力と分子結晶 ⑤共有結合の結晶	思考・判断・表現	・単位格子の一边の長さから金属の原子半径を求めることができる。 ・結晶の密度を求めることができる。 ・水素化合物の分子量と沸点の関係を理解する。 ・ダイヤモンドと黒鉛の性質について、結晶構造に基づきながら説明することができる。
					主体的に学習に取り組む態度	・固体の構造に関する課題に取り組み、提出することができる。
	第1編 物質の状態	第2章 物質の状態変化	状態変化に伴うエネルギーの出入りや化学結合と融点・沸点の関係を理解するとともに、気液平衡や蒸気圧、状態図についても理解する。	知識・技能	・熱運動と温度の関係について理解する。 ・状態変化の際に放出または吸収するエネルギーの名称を知る。 ・加熱曲線における物質の状態について理解する。 ・粒子間にはたらく力の大小について理解する。 ・大気圧に関して、単位を含めて理解する。 ・気液平衡の考え方を理解する。 ・蒸気圧曲線、および蒸気圧と沸騰の関係について理解する。 ・状態図については理解し、それぞれの曲線や点の名称を知る。	
				①粒子の熱運動 ②三態の変化とエネルギー ③気液平衡と蒸気圧	思考・判断・表現	・加熱による物質の温度変化を表した図において、融解熱や蒸発熱にあたる部分を判断することができる。 ・加熱曲線のグラフの形について説明することができる。 ・状態変化に必要な熱量を計算する。 ・蒸気圧曲線から物質の蒸気圧や沸点を判断することができる。 ・状態図を用いることで、ある温度・圧力における物質の状態を判断することができる。
					主体的に学習に取り組む態度	・物質の状態変化に関する課題に取り組み、提出することができる。
11	第1編 物質の状態	第3章 気体		気体の諸法則および分子量計算、また、混合気体に対する考え方や実在気体と理想気体の違いについて理解する。	知識・技能	・ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則を理解する。 ・気体の状態方程式について理解する。 ・分圧の法則、並びに分圧と体積やモル分率の関係を理解する。 ・混合気体の分圧や全圧を求めることができる。 ・理想気体と実在気体の違いについて理解する。
				①気体の体積 ②気体の状態方程式 ③混合気体の圧力 ④実在気体	思考・判断・表現	・気体の諸法則を適切に用い、気体の圧力や体積、温度を求めることができる。 ・理想気体の状態方程式を応用して、気体の分子量や密度を求めることができる。 ・モル分率を用いて平均分子量を求めることができる。 ・水上置換で捕集した気体の分圧を求めることができる。
					主体的に学習に取り組む態度	・気体の性質に関する課題に取り組み、提出することができる。
12	第1編 物質の状態	第4章 溶液	(2年) 後期末まで	溶解のしくみを理解するとともに、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。また、希薄溶液とその性質やコロイド溶液の性質について、身近な現象と結びつけながら理解する。	知識・技能	・水和について理解する。 ・溶解平衡について理解する。 ・溶解度や再結晶について理解する。 ・ヘンリーの法則について理解する。 ・質量モル濃度の求め方を理解する。 ・希薄溶液の蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧という現象を理解する。 ・冷却曲線と過冷却について理解する。 ・コロイドの分類について理解する。 ・コロイド溶液が示す特徴的な現象について理解する。 ・親水コロイドと疎水コロイドの沈殿について理解する。
				①溶解とそのしくみ ②溶解度 ③希薄溶液の性質 ④コロイド溶液	思考・判断・表現	・物質を電解質や非電解質に分けることができる。 ・分子の水への溶解の可否を判断することができる。 ・水和水をもつ物質の溶解量を求めることができる。 ・ヘンリーの法則を用いて、気体の溶解量を求めることができる。 ・質量パーセント濃度やモル濃度、質量モル濃度の計算、並びにその換算することができる。 ・沸点上昇や凝固点降下度を求めることができる。 ・沸点上昇や凝固点降下、浸透圧を利用して分子量を求めることができる。 ・コロイド溶液に起こる現象から、そのコロイドの性質や特徴について判断することができる。 ・保護コロイドについて説明することができる。
					主体的に学習に取り組む態度	・溶液の性質に関する課題に取り組み、提出することができる。
1	第2編 物質の変化	第1章 化学反応とエネルギー		物質のもつ化学エネルギーの差をエンタルピー変化として記述することを学び、さらにヘスの法則の利用について理解する。また、光の発生や吸収を伴う反応があることを理解する。	知識・技能	・化学反応に伴って放出または吸収する熱量をエンタルピー変化を用いて表すことを理解する。 ・エンタルピー変化を付した反応式とエンタルピー変化を表した図を理解し、それぞれを作る。 ・反応エンタルピーの種類を理解する。 ・ヘスの法則を理解する。 ・結合エネルギーの定義について理解する。 ・化学反応には、光を放出または吸収するものもあることを理解する。 ・光が関わる具体的な化学反応や現象を理解する。
				①化学反応と熱 ②ヘスの法則 ③化学反応と光	思考・判断・表現	・エンタルピー変化を付した反応式を書いたり、反応エンタルピーを求めたりする。 ・ヘスの法則を利用して、目的のエンタルピー変化を求めることができる。 ・光が関わる化学反応や現象について、エンタルピー変化の正負や反応名、現象名が判断することができる。
					主体的に学習に取り組む態度	・化学反応とエネルギーに関する課題に取り組み、提出することができる。

2 3	第2編 物質の 変化	第2章 電池と 電気分解		電気エネルギーを取り出す電池のしくみ、並びに電気エネルギーを利用した電気分解の反応について理解する。	知識・技能	- 電池のしくみとダニエル電池について理解する。 - 鉛蓄電池、燃料電池の構造や両極で起こる反応式について理解する。 - 実用電池の具体例を理解する。 - 電気分解の陽極で酸化反応が、陰極で還元反応が起こることを理解する。 - 水溶液の電気分解において陽極および陰極で具体的に起こる反応を理解する。 - ファラデーの法則を理解する。 - 電気分解の工業的な利用について理解する。	
				①電池 ②電気分解	思考・判断・表現	- 電池の両極での反応式を用いて、物質質量などの量的な計算ができる。 - 電気分解において発生する物質を判断することができる。 - 電気分解した際の陽極および陰極での反応を反応式で書くことができる。 - ファラデーの法則に基づき、電気分解の量的関係を計算することができる。	
					主体的に学習に取り組む態度	電池と電気分解に関する課題に取り組み、提出することができる。	

No.

2023 年度 理 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	生物	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次探究コース
使用教材	生物 数研出版 リードα 生物 数研出版 新課程版 スクエア最新図説生物 第一学習社						

目 標	(1) 生物学の基本的な概念や原理・法学的理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 生物学の基本的な概念や原理・法学的理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	ステップ2 生物学の基本的な概念を理解しているとともに、観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、内容を振り返るなど、科学的に探究しようとしている。
	ステップ1 生物や生物現象についての基本的な概念を理解している。	生物や生物現象から問題を見だし、観察、実験などを行い、得られた結果を表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に関して、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期試験、課題等 授業内の発言や問題に対する答え	定期試験、レポート、課題等 授業内の発言や問題に対する答え	単元の振り返り 自己評価・相互評価の内容

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

- ・授業の中に実験観察や話し合いの場面を設定する。
- ・大きなまとまり毎に学習内容の振り返りおよび自己評価等を行う。
- ・実験、実習等を積極的に実施する。

担当者より

生物学全般の基本となる事項について学ぶ。
最新の知見なども取り入れながら、生命活動全般に対する理解を深める。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	第1章 生物の進化	前期 中間Ⅰ まで 10	1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性 3. 遺伝子の組み合わせの変化	知識・技能 ・生命の起源について、化学進化を経て生命が誕生したことを理解する。 ・生物の形質の変化が、突然変異によって生じることを理解する。 ・有性生殖では、減数分裂・受精を経て遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。 ・自然選択と遺伝的浮動によって遺伝子頻度が変化することを理解する。 ・塩基配列やアミノ酸配列によって、生物の系統を推定できることを理解する。 思考・判断・表現 ・学習したことをもとに、最初の生物が地上ではなく海洋中で誕生した理由について考え、説明することができる。 ・遺伝子の変化と形質の変化を示した資料を比較し、遺伝子が変わると、遺伝子をもとにつくられるタンパク質が変化し、その結果形質が変化することを見いだすことができる。 ・無性生殖の場合、親と子で遺伝子の組み合わせがどうなるのかを考え、説明することができる。 ・異なる種の親から子が生まれることはあるが、その子からは子が生まれない理由を考え、説明することができる。	
5		前期 中間Ⅱ まで 8	4. 進化のしくみ 5. 生物の系統と進化 6. 人類の系統と進化	主体的に取り組む態度 ・生命の起源と生物の進化に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝子の変化と多様性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝子の組み合わせの変化に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・進化のしくみに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・生物の系統と進化に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・人類の系統と進化に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
6					
7	第2章 細胞と分子	前期 期末 まで 12	1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	知識・技能 ・細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。 ・生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 ・細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。 ・酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。 ・酵素反応を調節するしくみについて理解する。 ・生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。 思考・判断・表現 ・ミトコンドリアや葉緑体が、核とは別の独自のDNAをもっている理由を考え、説明することができる。	
8				主体的に取り組む態度 ・生体物質と細胞に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・タンパク質の構造と性質に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
9					
10	第3章 代謝	後期 中間 まで 14	1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成	知識・技能 ・生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 ・呼吸では有機物が酸化され、その際に取り出されたエネルギーを用いてATPが合成されることを理解する。 ・発酵では酸素を用いずに有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。 ・光合成では、光エネルギーを用いてATPとNADPHが合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。 思考・判断・表現 ・生体内の化学反応のうち、酸化還元反応を伴う反応では、大きなエネルギーの出入りが起こることを理解し、説明することができる。 ・光リン酸化と酸化的リン酸化の共通点を説明することができる。	
11				主体的に学習に取り組む態度 ・代謝とエネルギーに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・呼吸と発酵に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・光合成に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
12	第4章 遺伝情報の発現と発生	年度末 まで 16	1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. 発生と遺伝子発現 5. 遺伝子を扱う技術	知識・技能 ・DNAの複製のしくみを理解する。 ・遺伝情報の発現のしくみを理解する。 ・遺伝子の発現が調節されていることを理解する。 ・原核生物と真核生物において、遺伝子の発現が調節されるしくみを理解する。 ・発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。 ・遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 思考・判断・表現 ・DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製のしくみを見いだすことができる。 ・真核生物と原核生物の遺伝情報の発現の過程を表した資料を比較し、遺伝子発現の過程の違いを見いだすことができる。 ・遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見いだすことができる。	
1・2				主体的に学習に取り組む態度 ・DNAの構造と複製に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝情報の発現に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
3					
合計時数		60			

No.

2023 年度 理 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	生物	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次一般コース
使用教材	生物 数研出版 リードα 生物 数研出版 新課程版 スクエア最新図説生物 第一学習社						

目 標	(1) 生物学の基本的な概念や原理・法学的理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
↑ 評価規準	ステップ3 生物学の基本的な概念や原理・法学的理解をしているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	ステップ2 生物学の基本的な概念を理解しているとともに、観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、内容を振り返るなど、科学的に探究しようとしている。
	ステップ1 生物や生物現象についての基本的な概念を理解している。	生物や生物現象から問題を見だし、観察、実験などを行い、得られた結果を表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に関して、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期試験、課題等 授業内の発言や問題に対する答え	定期試験、レポート、課題等 授業内の発言や問題に対する答え	単元の振り返り 自己評価・相互評価の内容

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

- ・授業の中に実験観察や話し合いの場面を設定する。
- ・大きなまとまり毎に学習内容の振り返りおよび自己評価等を行う。
- ・実験、実習等を積極的に実施する。

担当者より

生物学全般の基本となる事項について学ぶ。
最新の知見なども取り入れながら、生命活動全般に対する理解を深める。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数	
4	第1章 生物の進化	前期 中間Ⅰ まで 10	1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性 3. 遺伝子の組み合わせの変化	知識・技能 ・生命の起源について、化学進化を経て生命が誕生したことを理解する。 ・生物の形質の変化が、突然変異によって生じることを理解する。 ・有性生殖では、減数分裂・受精を経て遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。 ・自然選択と遺伝的浮動によって遺伝子頻度が変化することを理解する。 ・塩基配列やアミノ酸配列によって、生物の系統を推定できることを理解する。 思考・判断・表現 ・学習したことをもとに、最初の生物が地上ではなく海洋中で誕生した理由について考え、説明することができる。 ・遺伝子の変化と形質の変化を示した資料を比較し、遺伝子が変わると、遺伝子をもとにつくられるタンパク質が変化し、その結果形質が変化することを見いだすことができる。 ・無性生殖の場合、親と子で遺伝子の組み合わせがどうなるのかを考え、説明することができる。 ・異なる種の親から子が生まれることはあるが、その子からは子が生まれない理由を考え、説明することができる。		
5		前期 中間Ⅱ まで 8	4. 進化のしくみ 5. 生物の系統と進化 6. 人類の系統と進化	主体的に取り組む態度 ・生命の起源と生物の進化に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝子の変化と多様性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝子の組み合わせの変化に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・進化のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・生物の系統と進化に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・人類の系統と進化に関心をもち、主体的に学習に取り組める。		
6						
7	第2章 細胞と分子	前期 期末 まで 12	1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	知識・技能 ・細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。 ・生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 ・細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。 ・酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。 ・酵素反応を調節するしくみについて理解する。 ・生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。 思考・判断・表現 ・ミトコンドリアや葉緑体が、核とは別の独自のDNAをもっている理由を考え、説明することができる。 主体的に取り組む態度 ・生体物質と細胞に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・タンパク質の構造と性質に関心をもち、主体的に学習に取り組める。		
8						
9						
10	第3章 代謝	後期 中間 まで 14	1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成	知識・技能 ・生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 ・呼吸では有機物が酸化され、その際に取り出されたエネルギーを用いてATPが合成されることを理解する。 ・発酵では酸素を用いずに有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。 ・光合成では、光エネルギーを用いてATPとNADPHが合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。 思考・判断・表現 ・生体内の化学反応のうち、酸化還元反応を伴う反応では、大きなエネルギーの出入りが起こることを理解し、説明することができる。 ・光リン酸化と酸化的リン酸化の共通点を説明することができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・代謝とエネルギーに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・呼吸と発酵に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。		
11						
12	第4章 遺伝情報の発現と発生	年度末 まで 16	1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. 発生と遺伝子発現 5. 遺伝子を扱う技術	知識・技能 ・DNAの複製のしくみを理解する。 ・遺伝情報の発現のしくみを理解する。 ・遺伝子の発現が調節されていることを理解する。 ・原核生物と真核生物において、遺伝子の発現が調節されるしくみを理解する。 ・発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。 ・遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 思考・判断・表現 ・DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製のしくみを見いだすことができる。 ・真核生物と原核生物の遺伝情報の発現の過程を表した資料を比較し、遺伝子発現の過程の違いを見いだすことができる。 ・遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見いだすことができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・DNAの構造と複製に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。		
1・2						
3						
合計時数		60				

科目	体育	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次
使用教材	ステップアップ高校スポーツ2023（大修館書店） 新高等 保健体育（大修館書店）						
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を育成する。						

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの身に付けた技能を活用し発展できる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、主体的に思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者にわかりやすく伝えることができる。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持ち、主体的に運動に取り組むことができる。
	ステップ2 運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けることができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持ち、自主的に運動に取り組むことができる。
	ステップ1 運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解することができる。	生涯にわたって運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断することができる。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にすることを理解して、運動に取り組もうとしている。
評価方法	運動技能の観察、パフォーマンステスト、学習ノート、小テスト	授業の観察、学習ノート、事前・事後アンケート	授業の観察、学習ノート、事前事後アンケート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

- ・2～3クラス合同で一斉授業、選択授業、グループ学習等を行い主体的な学習の取り組みとなります。
- ・陸上競技は5種目、球技Ⅰ・Ⅱは3型5種目、ダンス・球技Ⅲは2領域6種目からそれぞれ1つを選択します。また、球技Ⅰ・Ⅱは類型を変え、球技Ⅲは種目を変えて選択するようになります。
- ・ダンス授業は現代的なリズムのダンスをグループ毎創作し、年次発表会を行います。
- ・スキーはスキー場にて終日授業となり、前半は習熟度別グループ講習、後半は身に付けた基礎スキー技能を用いて仲間と総合滑降を行います。

担当者より

- ・運動の意義や技能の理論などを理解し、合理的、計画的な実践を通して、運動技能を身に付け、自己の状況に応じて体力の向上を図ろうとする取り組みができるようになること。
- ・公正、協力、責任、参画、多様性などを大切にしようとする意欲と生涯にわたって継続して運動に親しむための基礎を身に付けられるように取り組んでください。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	体づくり運動 体育理論Ⅰ	7	○オリエンテーション ○集団行動、体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画作成 ・集団行動のおもな行動様式を身に付ける。集団の約束や決まりを守って、仲間と協力し主体的に行動できるようにする。 ・手軽な運動や長距離走を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解する。また、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。 ○体育理論Ⅰ ・運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があることを理解する。さらに、過度な負荷や長期的な酷使はけがや疾病の原因となる可能性があることを理解する。	
5				
6		球技Ⅰ	12	○球技Ⅰはゴール型(サッカー・バスケットボール)、ネット型(バレーボール・ソフトテニス)、ベースボール型(ソフトボール)の5種目から1つ選択する。 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携し、ゲーム展開することができるようにする。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考え方を他者に伝えることができるようにする。 ・球技の各種目で用いられる技術や戦術、作戦を身に付けるためのポイントを学ぶ。
7				
8	陸上	10	○陸上競技は短距離走、長距離走、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げの5種目から1つ選択する。 ・自らが選択した種目の記録向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 ・自主的な学習を通して、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向け練習の仕方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。	
9				
10	体育理論Ⅱ 球技Ⅱ	12	○体育理論Ⅱ ・運動やスポーツの技術は、学習を通して技能として発揮されるようになることが理解できるようにする。また、技術の種類に応じた学習の仕方があることや現代のスポーツの技術や戦術・ルールは用具の改良やメディアの発達に伴い変り続けていくことを理解する。 ゴール型(サッカー・バスケ) ネット型(バレーボール・ソフトテニス)、ベースボール型(ソフトボール)を開設し、球技Ⅰで選択した類型以外の種目を選択する。(学習内容は球技Ⅰと同じ)	
11			○球技またはダンスの2領域6種目から1つ選択する。 ・球技Ⅲはゴール型(サッカー・バスケットボール)、ネット型(バレーボール・バドミントン・卓球)を開設し、球技Ⅰ・Ⅱで選択した種目以外を選択する。(学習内容は球技Ⅰと同じ) ○ダンス ・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法を理解する。 ・イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができるようにする。 ・自主的な取り組みで自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	
12				
1	体育理論Ⅲ スキー	10	○体育理論Ⅲ ・運動やスポーツの上達課程にはいくつかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあることを理解する。また、これらの獲得には一定の期間があることも理解する。 ・運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められることを理解する。 ○スキー ・自然とのかかわりの深いスキーを通して、生命及び自然を尊重する精神・態度などを身に付ける。 ・生涯を通してスキーの楽しみ方、目的や環境の変化に対応して個人や仲間とともに継続的に学び合うことができる多様なかわり方を学ぶ。 ・習熟度別グループ講習で基礎スキー技術を学び、スキー場の設定されたコースで、滑降、ターン、停止などの技能を用いて、斜面や雪の状態に適応して滑ることができるようにする。 ・天候の変わりやすい自然環境、自己や仲間の体力や技能の程度等に配慮し、健康・安全の確保ができるようにする。	
2				
3				
合計時数		51		

No.

2023 年度 保健体育 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	保健	単位数	1	週時間数	1	年次・コース・組	2年次
使用教材	新高等保健体育（大修館書店）						

目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、それらの身につけた技能を個人だけでなく社会生活について総合的に理解できるようにするとともに活用し、発展できる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に表現することができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。
	ステップ2 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、それらの技能を身につけることができる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を目指すことができる。
	ステップ1 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めることができる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活について関心を持つことができる。
評価方法	ワークシート、定期試験、学習ノート、課題レポート	授業の観察、ワークシート、定期試験、課題レポート	授業の観察、ワークシート、課題レポートの取り組み

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

- ・2年次は、生涯を通じる健康と健康を支える環境づくりの分野について理解を深める。
- ・一斉授業を主とし、学習課題などについて主体的に調べたり、ペアワークやグループワークなどを取り入れる。
- ・ICTや黒板の使用、ワークシートの記入等で基本的な知識を身に付けることができるようにする。
- ・自分で調べたい分野の探究活動を通して新聞を作成することで主体的な学びをできるようにする。
- ・定期試験を通して、保健の知識及び技能を確実なものにする。

担当者より

生涯で最後の保健の授業です。性教育では、1年次で学んだ内容を再確認し、自分を含め大切な人を守る知恵を身につけてください。結婚生活と健康や加齢と健康、環境問題など近い将来必ず身近になってくるであろうテーマを学び、考えを深めていきます。ただ知識として身につけるだけでなく、知恵として活用できるよう主体的に学んでいきましょう

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
	3章 生涯を通じる健康			
4	1.思春期と健康 2.性意識の変化と性行動の選択	3	(3)生涯を通じる健康 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を学び、身に付けることができるようする。 ア生涯を通じる健康について理解を深める。	
5	3.結婚生活と健康 4.妊娠・出産と健康	2	(ア)生涯の各段階における健康 (イ)労働と健康	
6	5.家族計画 6.加齢と健康 7.高齢社会に対応した取り組み	4	イ生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができるようにする。	
7	8.働くことと健康 9.労働災害の防止 10.働く人の健康づくり	3	思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。 結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。また中高年期から高齢期を健やかに過ごすために必要な知識を身に付ける。	
8	4章 健康を支える環境づくり		(4)健康を支える環境づくり 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 ア健康を支える環境づくりについて理解を深めること。 (ア)環境と健康	
9	1.大気汚染と健康 2.水質汚濁・土壌汚染と健康 3.健康被害を防ぐための環境対策 4.環境衛生に関わる活動 (前期期末試験)	4	人間生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあることを理解できるようにする。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解する。(イ)食品と健康 食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であることを理解する。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解する。 (ウ)保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であることを理解する。 また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解する。 (エ)様々な保健活動や社会的対策	
10	5.食品の安全性と健康 6.食品の安全性を確保する取り組み	3	我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを知る。	
11	7.保健制度とその活用 8.医療制度とその活用	4	(オ)健康に関する環境づくりと社会参加 自他の健康の保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解する。イ健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。	
12	9.医薬品の制度とその活用 10.様々な保健活動や対策	4		
1	11.誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	2	(オ)健康に関する環境づくりと社会参加 自他の健康の保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解する。イ健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。	
2	(後期期末試験)			
3				
合計時数		29		

No.

2023 年度 英語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	週時間数	4	年次・コース・組	2年次・一般コース(理・文)
使用教材	教科書 Heartening English CommunicationⅠ・Ⅱ、 Workbook、参考書 Genius総合英語、辞書						

目 標	1. 英語コミュニケーションⅠで身に付けた知識・技能を活用し、英語で「聞く」、「読む」、「話す(やり取り・発表)」、「書く」の言語活動を統合的に行うことで、情報や考えなどを的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。「読む」能力については、1分あたり110語程度の語数を処理できることを目標とする。 2. 授業の予習・復習、課題への取組等により、言語活動を行う基盤となる文法、発音、語彙・表現等の知識・技能を身に付ける。語彙力については、年度末までに習得語数3600語以上を目指す。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に論理的に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を論理性に注意して相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を論理性に注意して相手に伝えようとしている。
	ステップ2 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に適切に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を適切に相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を適切に相手に伝えようとしている。
	ステップ1 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を相手に伝えようとしている。
評価方法	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業の取り組み姿勢や意欲、課題への取り組み、音読評価シート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

授業では主に語彙の確認、内容把握、重要事項の説明、音読、リテリングを行います。 一斉授業の他に、グループ学習、ペア学習、発表などを行います。

担当者より

授業は予習したことを復習する場、予習段階で不明だった点を理解していく場と考え、授業には必ず予習をして臨むこと。授業後は、学習内容の理解を深め、自分のものとして使うことができるようにするため、音読を中心とした復習をすること。各Partの復習の授業では、音読確認シートを使って音読の評価を行っていきます。
--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	【Heartening I】 Lesson 10 Capturing the Reality of the World	10	【内容】 フォトジャーナリスト安田菜津紀氏が仕事を通して学んだ使命について述べた物語文。主体的に社会の形成に参画し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・仮定法過去／仮定法過去完了 ・仮定法を使った表現	
5	【Heartening II】 Lesson 1 Laughter without Borders (前期中間テストI)	10	【内容】 海外で狂言を広めている、チェコ出身のオンジェイ・ヒーブル氏へのインタビューを読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・未来を表す表現(未来進行形／be to do) ・時制の一致	
6	Lesson 2 The Ongoing Voyages of Curry (前期中間テストII)	16	【内容】 インドのカレーがどのように日本のカレーへと変貌したかについての説明文を読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・未来完了形 ・前置詞	
7・8	Lesson 3 The World's Most Bicycle-friendly City	12	【内容】 コペンハーゲンがどのようにして世界有数の自転車都市となったかについての説明文を読む。環境の保全に寄与する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・助動詞＋have＋過去分詞 ・助動詞に関連する表現	
9	Lesson 4 Can You Feel Emotions in Text? (前期期末テスト)	12	【内容】 国や文化による顔文字の違いについての論証文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・さまざまな動名詞 ・動名詞を使った表現	
10	Lesson 5 Background Music and Sharks	16	【内容】 サメの動画において、そのBGMが人に与える影響について述べた報告文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、環境の保全に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・さまざまな不定詞 ・seem [appear] to do／seem [appear] to have＋過去分詞	
11	Lesson 6 The Benefits of Play (後期中間テスト)	12	【内容】 遊びが成長にもたらす利点についての説明文を読む。個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・SVOOの受動態 ・They say [believe] that … などの受動態	
12	Lesson 7 Nursing in a War Zone	7	【内容】 国境なき医師団の看護師、白川優子氏の活動についての物語文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・さまざまな分詞構文 ・独立分詞構文／付帯状況を表す(with＋名詞＋分詞)	
1	Lesson 8 Hawaii's Debate about a Sacred Mountain	13	【内容】 神聖な山に最新の望遠鏡を設置すべきかについて、対立する2者の意見文を読む。伝統と文化を尊重する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・比較に関する表現 ・従属接続詞	
2・3	Lesson 9 The Next Wave in Artificial Intelligence (後期期末テスト)	12	【内容】 人工知能の最新技術やロボットとの共生についての説明文と意見文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・関係代名詞と前置詞／関係副詞の非制限用法 ・複合関係詞	
合計時数		125		

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	週時間数	4	年次・コース・組	2年次・一般コース(理・文)
使用教材	教科書 Heartening English CommunicationⅠ・Ⅱ、Workbook、参考書 Genius総合英語、辞書						

目 標	1. 英語コミュニケーションⅠで身に付けた知識・技能を活用し、英語で「聞く」、「読む」、「話す(やり取り・発表)」、「書く」の言語活動を統合的に行うことで、情報や考えなどを的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。「読む」能力については、1分あたり110語程度の語数を処理できることを目標とする。 2. 授業の予習・復習、課題への取組等により、言語活動を行う基盤となる文法、発音、語彙・表現等の知識・技能を身に付ける。語彙力については、年度末までに習得語数3600語以上を目指す。
-----	--

身に付けてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準 	ステップ3 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に論理的に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を論理性に注意して相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を論理性に注意して相手に伝えようとしている。
	ステップ2 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に適切に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を適切に相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を適切に相手に伝えようとしている。
	ステップ1 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を相手に伝えようとしている。
評価方法	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業の取り組み姿勢や意欲、課題への取り組み、音読評価シート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

授業では主に語彙の確認、内容把握、重要事項の説明、音読、リテリングを行います。一斉授業の他に、グループ学習、ペア学習、発表などを行います。

担当者より

授業は予習したことを復習する場、予習段階で不明だった点を理解していく場と考え、授業には必ず予習をして臨むこと。授業後は、学習内容の理解を深め、自分のものとして使うことができるようにするため、音読を中心とした復習をすること。各Partの復習の授業では、音読確認シートを使って音読の評価を行っていきます。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	【Heartening I】 Lesson 10 Capturing the Reality of the World	10	【内容】 フォトジャーナリスト安田菜津紀氏が仕事を通じて学んだ使命について述べた物語文。主体的に社会の形成に参画し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・仮定法過去／仮定法過去完了 ・仮定法を使った表現	
5	【Heartening II】 Lesson 1 Laughter without Borders (前期中間テストI)	10	【内容】 海外で狂言を広めている、チェコ出身のオンジェイ・ヒーブル氏へのインタビューを読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・未来を表す表現(未来進行形／be to do) ・時制の一致	
6	Lesson 2 The Ongoing Voyages of Curry (前期中間テストII)	16	【内容】 インドのカレーがどのように日本のカレーへと変貌したかについての説明文を読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・未来完了形 ・前置詞	
7・8	Lesson 3 The World's Most Bicycle-friendly City	12	【内容】 コペンハーゲンがどのようにして世界有数の自転車都市となったかについての説明文を読む。環境の保全に寄与する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・助動詞＋have＋過去分詞 ・助動詞に関連する表現	
9	Lesson 4 Can You Feel Emotions in Text? (前期期末テスト)	12	【内容】 国や文化による顔文字の違いについての論証文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・さまざまな動名詞 ・動名詞を使った表現	
10	Lesson 5 Background Music and Sharks	16	【内容】 サメの動画において、そのBGMが人に与える影響について述べた報告文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、環境の保全に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・さまざまな不定詞 ・seem [appear] to do／seem [appear] to have＋過去分詞	
11	Lesson 6 The Benefits of Play (後期中間テスト)	12	【内容】 遊びが成長にもたらす利点についての説明文を読む。個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・SVOOの受動態 ・They say [believe] that … などの受動態	
12	Lesson 7 Nursing in a War Zone	7	【内容】 国境なき医師団の看護師、白川優子氏の活動についての物語文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・さまざまな分詞構文 ・独立分詞構文／付帯状況を表す(with＋名詞＋分詞)	
1	Lesson 8 Hawaii's Debate about a Sacred Mountain	13	【内容】 神聖な山に最新の望遠鏡を設置すべきかについて、対立する2者の意見文を読む。伝統と文化を尊重する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・比較に関する表現 ・従属接続詞	
2・3	Lesson 9 The Next Wave in Artificial Intelligence	12	【内容】 人工知能の最新技術やロボットとの共生についての説明文と意見文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】	
合計時数		125		

No.

2023 年度 英語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	週時間数	4	年次・コース・組	2年次・探究コース(理・文)
使用教材	教科書 Heartening English CommunicationⅠ・Ⅱ、 Workbook、参考書 Genius総合英語、辞書						

目 標	1. 英語コミュニケーションⅠで身に付けた知識・技能を活用し、英語で「聞く」、「読む」、「話す(やり取り・発表)」、「書く」の言語活動を統合的に行うことで、情報や考えなどを的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。「読む」能力については、1分あたり110語程度の語数を処理できることを目標とする。 2. 授業の予習・復習、課題への取組等により、言語活動を行う基盤となる文法、発音、語彙・表現等の知識・技能を身に付ける。語彙力については、年度末までに習得語数3600語以上を目指す。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に論理的に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を論理性に注意して相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を論理性に注意して相手に伝えようとしている。
	ステップ2 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に適切に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を適切に相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を適切に相手に伝えようとしている。
	ステップ1 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を相手に伝えようとしている。
評価方法	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業の取り組み姿勢や意欲、課題への取り組み、音読評価シート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

授業では主に語彙の確認、内容把握、重要事項の説明、音読、リテリングを行います。
一斉授業の他に、グループ学習、ペア学習、発表などを行います。

担当者より

授業は予習したことを復習する場、予習段階で不明だった点を理解していく場と考え、授業には必ず予習をして臨むこと。授業後は、学習内容の理解を深め、自分のものとして使うことができるようにするため、音読を中心とした復習をすること。各Partの復習の授業では、音読確認シートを使って音読の評価を行っていきます。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	【Heartening I】 Lesson 10 Capturing the Reality of the World	10	【内容】 フォトジャーナリスト安田菜津紀氏が仕事を通じて学んだ使命について述べた物語文。主体的に社会の形成に参画し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・仮定法過去／仮定法過去完了 ・仮定法を使った表現	
5	【Heartening II】 Lesson 1 Laughter without Borders (前期中間テストI)	10	【内容】 海外で狂言を広めている、チェコ出身のオンジェイ・ヒーブル氏へのインタビューを読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・未来を表す表現(未来進行形／be to do) ・時制の一致	
6	Lesson 2 The Ongoing Voyages of Curry (前期中間テストII)	16	【内容】 インドのカレーがどのように日本のカレーへと変貌したかについての説明文を読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・未来完了形 ・前置詞	
7・8	Lesson 3 The World's Most Bicycle-friendly City	12	【内容】 コペンハーゲンがどのようにして世界有数の自転車都市となったかについての説明文を読む。環境の保全に寄与する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・助動詞＋have＋過去分詞 ・助動詞に関連する表現	
9	Lesson 4 Can You Feel Emotions in Text? (前期期末テスト)	12	【内容】 国や文化による顔文字の違いについての論証文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・さまざまな動名詞 ・動名詞を使った表現	
10	Lesson 5 Background Music and Sharks	16	【内容】 サメの動画において、そのBGMが人に与える影響について述べた報告文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、環境の保全に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・さまざまな不定詞 ・seem [appear] to do／seem [appear] to have＋過去分詞	
11	Lesson 6 The Benefits of Play (後期中間テスト)	12	【内容】 遊びが成長にもたらす利点についての説明文を読む。個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・SVOOの受動態 ・They say [believe] that … などの受動態	
12	Lesson 7 Nursing in a War Zone	7	【内容】 国境なき医師団の看護師、白川優子氏の活動についての物語文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・さまざまな分詞構文 ・独立分詞構文／付帯状況を表す(with＋名詞＋分詞)	
1	Lesson 8 Hawaii's Debate about a Sacred Mountain	13	【内容】 神聖な山に最新の望遠鏡を設置すべきかについて、対立する2者の意見文を読む。伝統と文化を尊重する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】 ・比較に関する表現 ・従属接続詞	
2・3	Lesson 9 The Next Wave in Artificial Intelligence	12	【内容】 人工知能の最新技術やロボットとの共生についての説明文と意見文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。また、以下の言語材料を用いて、学習した内容を口頭で説明したり、書いたりできるようになる。 【言語材料】	
合計時数		125		

科目	論理・表現Ⅱ	単位数	3	週時間数	3	年次・コース・組	2年次・一般コース文系
使用教材	教科書 Genius English Logic and ExpressionⅡ 参考書 Genius総合英語						

目 標	1. 論理・表現Ⅱで身につけた知識・技能を活用し、英語で「話す(やり取り・発表)」、「書く」の言語活動を通して、情報や考えなどを的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。 2. 授業の予習・復習、課題への取組等により、言語活動を行う基盤となる文法、発音、語彙・表現等の知識・技能を身に付ける。語彙力については、年度末までに習得語数3600語以上を目指す。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 ・論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。 ・日常的な話題や社会的な話題について、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合う技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合っている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合おうとしている。
	ステップ2 ・相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる形式や表現を理解している。 ・日常的な話題や社会的な話題について、自分の意見や考えを的確に伝え合う技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合っている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合おうとしている。
	ステップ1 ・相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる基本的な形式や表現を理解している。 ・日常的な話題について、相手に分かりやすく伝える技能を身に付けている。	日常的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えている。	日常的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えようとしている。
評価方法	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業の取り組み姿勢や意欲、課題への取り組み、授業用ワークシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

授業では主に1時間目はUnitで出てくる文法事項の学習やリスニング活動、2時間目は文法事項の復習や学習したことを用いた言語活動を行います。一斉授業の他に、グループ学習、ペア学習、発表などを行います。

担当者より

授業は予習したことを復習する場、予習段階で不明だった点を理解していく場と考え、授業には必ず予習をして臨むこと。授業後は、学習内容の理解を深め、自分のものとして使うことができるようにするため、復習をすること。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	Part I Unit 1 What Country Do You Want to Go To? Part I Unit 2 Book Report	5	クラスメートに向けて行きたい国を紹介することができる。 [言語材料] 漠然と「人々」を表す we, you など, 非人称ノ形式主語の it, there構文 ビブリオバトルの聴衆に向けて, おすすめの本を紹介することができる。 [言語材料] 受動態, 無生物主語	
5	Part I Unit 3 What News Are You Most Interested In? Part I Unit 4 What Do You Think about Sports? (前期中間試験Ⅰ)	5 1	クラスメートに向けて, 気になるニュースについて説明することができる。 [言語材料] 現在時制・過去時制, 未来を表す表現, 進行形, 完了形 クラスメートに向けて, スポーツに対する自分の意見を述べるすることができる。 [言語材料] 不定詞(名詞的用法), 動名詞, 名詞節を導く接続詞, 名詞節を導く疑問詞	
6	Part I Unit 5 Must-Try Local Foods Part I Unit 6 Letter of Encouragement Part II Unit1 What Makes You Happy (前期中間試験Ⅱ)	2 2 4 1	観光客に向けて, おすすめの地元の料理を紹介することができる。 [言語材料] 分詞, 関係詞, 不定詞(形容詞的用法) 悩みを抱えている人への励ましの手紙を書くことができる。 [言語材料] 意志・推量・義務・必要性を表す助動詞 自分を幸せにするもの／ことについてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 列挙する表現, 比較を表す構文	
7	Part II Unit 2 Does Technology Make Our Lives Better?	4	科学技術と生活についてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 例をあげる表現, 程度の差や変化を表す構文	
8	Part II Unit 3 My Personal History	4	自分自身のこれまでの振り返るパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 順序立てて述べる表現, 時を表す構文	
9	Part II Unit 4 City? or Country? (前期期末試験)	4 1	都会と田舎のどちらに住むべきかについてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 対比・対照する表現, 類似を示す表現, 譲歩を表す構文	
10	Part II Unit 5 Environmental Problems	6	環境問題とその解決策についてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 結果を導く表現, 原因を述べる表現, 目的を表す構文	
11	Part III Unit 1 One Small Action (後期中間試験)	8 1	社会をより良くするための行動について述べることができる。 [言語材料] 話題を切り出す表現, 関心を引く表現, 次の話題に移る表現	
12 1 2	Part III Unit 2 Creating Something New in Empty Spaces Part III Unit 3 Making Your Hometown Special (後期期末試験)	8 8 1	既習のさまざまな表現を用いて、空きスペースの有効な活用法について述べるができる。 地元や住んでいる地域のまちづくりについて述べるができる。 [言語材料] 議論を進行する表現, 発言を促す表現, 意見をまとめる表現	
合計時数		65		

科目	論理・表現Ⅱ	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次・一般コース理系
使用教材	教科書 Genius English Logic and ExpressionⅡ 参考書 Genius総合英語						

目 標	1. 論理・表現Ⅱで身につけた知識・技能を活用し、英語で「話す(やり取り・発表)」、「書く」の言語活動を通して、情報や考えなどを的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。 2. 授業の予習・復習、課題への取組等により、言語活動を行う基盤となる文法、発音、語彙・表現等の知識・技能を身に付ける。語彙力については、年度末までに習得語数3600語以上を目指す。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 ・論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。 ・日常的な話題や社会的な話題について、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合う技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合っている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合おうとしている。
	ステップ2 ・相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる形式や表現を理解している。 ・日常的な話題や社会的な話題について、自分の意見や考えを的確に伝え合う技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合っている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合おうとしている。
	ステップ1 ・相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる基本的な形式や表現を理解している。 ・日常的な話題について、相手に分かりやすく伝える技能を身に付けている。	日常的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えている。	日常的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えようとしている。
評価方法	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業の取り組み姿勢や意欲、課題への取り組み、授業用ワークシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

授業では主に1時間目はUnitで出てくる文法事項の学習やリスニング活動、2時間目は文法事項の復習や学習したことを用いた言語活動を行います。一斉授業の他に、グループ学習、ペア学習、発表などを行います。

担当者より

授業は予習したことを復習する場、予習段階で不明だった点を理解していく場と考え、授業には必ず予習をして臨むこと。授業後は、学習内容の理解を深め、自分のものとして使うことができるようにするため、復習をすること。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	Part I Unit 1 What Country Do You Want to Go To? Part I Unit 2 Book Report	5	クラスメートに向けて行きたい国を紹介することができる。 [言語材料] 漠然と「人々」を表す we, you など, 非人称ノ形式主語の it, there構文 ビブリオバトルの聴衆に向けて, おすすめの本を紹介することができる。 [言語材料] 受動態, 無生物主語	
5	Part I Unit 3 What News Are You Most Interested In? Part I Unit 4 What Do You Think about Sports? (前期中間試験Ⅰ)	5 1	クラスメートに向けて, 気になるニュースについて説明することができる。 [言語材料] 現在時制・過去時制, 未来を表す表現, 進行形, 完了形 クラスメートに向けて, スポーツに対する自分の意見を述べるすることができる。 [言語材料] 不定詞(名詞的用法), 動名詞, 名詞節を導く接続詞, 名詞節を導く疑問詞	
6	Part I Unit 5 Must-Try Local Foods Part I Unit 6 Letter of Encouragement Part II Unit1 What Makes You Happy (前期中間試験Ⅱ)	2 2 4 1	観光客に向けて, おすすめの地元の料理を紹介することができる。 [言語材料] 分詞, 関係詞, 不定詞(形容詞的用法) 悩みを抱えている人への励ましの手紙を書くことができる。 [言語材料] 意志・推量・義務・必要性を表す助動詞 自分を幸せにするもの／ことについてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 列挙する表現, 比較を表す構文	
7	Part II Unit 2 Does Technology Make Our Lives Better?	4	科学技術と生活についてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 例をあげる表現, 程度の差や変化を表す構文	
8	Part II Unit 3 My Personal History	4	自分自身のこれまでの振り返るパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 順序立てて述べる表現, 時を表す構文	
9	Part II Unit 4 City? or Country? (前期期末試験)	4 1	都会と田舎のどちらに住むべきかについてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 対比・対照する表現, 類似を示す表現, 譲歩を表す構文	
10	Part II Unit 5 Environmental Problems	6	環境問題とその解決策についてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 結果を導く表現, 原因を述べる表現, 目的を表す構文	
11	PartⅢ Unit 1 One Small Action (後期中間試験)	8 1	社会をより良くするための行動について述べることができる。 [言語材料] 話題を切り出す表現, 関心を引く表現, 次の話題に移る表現	
12 1 2	PartⅢ Unit 2 Creating Something New in Empty Spaces PartⅢ Unit 3 Making Your Hometown Special (後期期末試験)	8 8 1	既習のさまざまな表現を用いて、空きスペースの有効な活用法について述べるができる。 地元や住んでいる地域のまちづくりについて述べるができる。 [言語材料] 議論を進行する表現, 発言を促す表現, 意見をまとめる表現	
合計時数		65		

科目	論理・表現Ⅱ	単位数	3	週時間数	3	年次・コース・組	2年次・探究コース文系
使用教材	教科書 Genius English Logic and Expression Ⅱ 参考書 Genius総合英語						

目 標	1. 論理・表現Ⅱで身につけた知識・技能を活用し、英語で「話す(やり取り・発表)」、「書く」の言語活動を通して、情報や考えなどを的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。 2. 授業の予習・復習、課題への取組等により、言語活動を行う基盤となる文法、発音、語彙・表現等の知識・技能を身に付ける。語彙力については、年度末までに習得語数3600語以上を目指す。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 ・論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。 ・日常的な話題や社会的な話題について、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合う技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合っている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合おうとしている。
	ステップ2 ・相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる形式や表現を理解している。 ・日常的な話題や社会的な話題について、自分の意見や考えを的確に伝え合う技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合っている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合おうとしている。
	ステップ1 ・相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる基本的な形式や表現を理解している。 ・日常的な話題について、相手に分かりやすく伝える技能を身に付けている。	日常的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えている。	日常的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えようとしている。
評価方法	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業の取り組み姿勢や意欲、課題への取り組み、授業用ワークシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

授業では主に1時間目はUnitで出てくる文法事項の学習やリスニング活動、2時間目は文法事項の復習や学習したことを用いた言語活動を行います。一斉授業の他に、グループ学習、ペア学習、発表などを行います。

担当者より

授業は予習したことを復習する場、予習段階で不明だった点を理解していく場と考え、授業には必ず予習をして臨むこと。授業後は、学習内容の理解を深め、自分のものとして使うことができるようにするため、復習をすること。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	Part I Unit 1 What Country Do You Want to Go To? Part I Unit 2 Book Report	5	クラスメートに向けて行きたい国を紹介することができる。 [言語材料] 漠然と「人々」を表す we, you など, 非人称ノ形式主語の it, there構文 ビブリオバトルの聴衆に向けて, おすすめの本を紹介することができる。 [言語材料] 受動態, 無生物主語	
5	Part I Unit 3 What News Are You Most Interested In? Part I Unit 4 What Do You Think about Sports? (前期中間試験Ⅰ)	5 1	クラスメートに向けて, 気になるニュースについて説明することができる。 [言語材料] 現在時制・過去時制, 未来を表す表現, 進行形, 完了形 クラスメートに向けて, スポーツに対する自分の意見を述べるすることができる。 [言語材料] 不定詞(名詞的用法), 動名詞, 名詞節を導く接続詞, 名詞節を導く疑問詞	
6	Part I Unit 5 Must-Try Local Foods Part I Unit 6 Letter of Encouragement Part II Unit1 What Makes You Happy (前期中間試験Ⅱ)	2 2 4 1	観光客に向けて, おすすめの地元の料理を紹介することができる。 [言語材料] 分詞, 関係詞, 不定詞(形容詞的用法) 悩みを抱えている人への励ましの手紙を書くことができる。 [言語材料] 意志・推量・義務・必要性を表す助動詞 自分を幸せにするもの／ことについてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 列挙する表現, 比較を表す構文	
7	Part II Unit 2 Does Technology Make Our Lives Better?	4	科学技術と生活についてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 例をあげる表現, 程度の差や変化を表す構文	
8	Part II Unit 3 My Personal History	4	自分自身のこれまでの振り返るパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 順序立てて述べる表現, 時を表す構文	
9	Part II Unit 4 City? or Country? (前期期末試験)	4 1	都会と田舎のどちらに住むべきかについてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 対比・対照する表現, 類似を示す表現, 譲歩を表す構文	
10	Part II Unit 5 Environmental Problems	6	環境問題とその解決策についてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 結果を導く表現, 原因を述べる表現, 目的を表す構文	
11	Part III Unit 1 One Small Action (後期中間試験)	8 1	社会をより良くするための行動について述べることができる。 [言語材料] 話題を切り出す表現, 関心を引く表現, 次の話題に移る表現	
12 1 2	Part III Unit 2 Creating Something New in Empty Spaces Part III Unit 3 Making Your Hometown Special (後期期末試験)	8 8 1	既習のさまざまな表現を用いて、空きスペースの有効な活用法について述べることができる。 地元や住んでいる地域のまちづくりについて述べることができる。 [言語材料] 議論を進行する表現, 発言を促す表現, 意見をまとめる表現	
合計時数		65		

科目	論理・表現Ⅱ	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年次・探究コース理系
使用教材	教科書 Genius English Logic and ExpressionⅡ 参考書 Genius総合英語						

目 標	1. 論理・表現Ⅱで身につけた知識・技能を活用し、英語で「話す(やり取り・発表)」、「書く」の言語活動を通して、情報や考えなどを的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。 2. 授業の予習・復習、課題への取組等により、言語活動を行う基盤となる文法、発音、語彙・表現等の知識・技能を身に付ける。語彙力については、年度末までに習得語数3600語以上を目指す。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 ・論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。 ・日常的な話題や社会的な話題について、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合う技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合っている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合おうとしている。
	ステップ2 ・相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる形式や表現を理解している。 ・日常的な話題や社会的な話題について、自分の意見や考えを的確に伝え合う技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合っている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合おうとしている。
	ステップ1 ・相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる基本的な形式や表現を理解している。 ・日常的な話題について、相手に分かりやすく伝える技能を身に付けている。	日常的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えている。	日常的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えようとしている。
評価方法	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、小テスト	授業の取り組み姿勢や意欲、課題への取り組み、授業用ワークシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

授業では主に1時間目はUnitで出てくる文法事項の学習やリスニング活動、2時間目は文法事項の復習や学習したことを用いた言語活動を行います。一斉授業の他に、グループ学習、ペア学習、発表などを行います。

担当者より

授業は予習したことを復習する場、予習段階で不明だった点を理解していく場と考え、授業には必ず予習をして臨むこと。授業後は、学習内容の理解を深め、自分のものとして使うことができるようにするため、復習をすること。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	Part I Unit 1 What Country Do You Want to Go To? Part I Unit 2 Book Report	5	クラスメートに向けて行きたい国を紹介することができる。 [言語材料] 漠然と「人々」を表す we, you など, 非人称ノ形式主語の it, there構文 ビブリオバトルの聴衆に向けて, おすすめの本を紹介することができる。 [言語材料] 受動態, 無生物主語	
5	Part I Unit 3 What News Are You Most Interested In? Part I Unit 4 What Do You Think about Sports? (前期中間試験Ⅰ)	5 1	クラスメートに向けて, 気になるニュースについて説明することができる。 [言語材料] 現在時制・過去時制, 未来を表す表現, 進行形, 完了形 クラスメートに向けて, スポーツに対する自分の意見を述べるすることができる。 [言語材料] 不定詞(名詞的用法), 動名詞, 名詞節を導く接続詞, 名詞節を導く疑問詞	
6	Part I Unit 5 Must-Try Local Foods Part I Unit 6 Letter of Encouragement Part II Unit1 What Makes You Happy (前期中間試験Ⅱ)	2 2 4 1	観光客に向けて, おすすめの地元の料理を紹介することができる。 [言語材料] 分詞, 関係詞, 不定詞(形容詞的用法) 悩みを抱えている人への励ましの手紙を書くことができる。 [言語材料] 意志・推量・義務・必要性を表す助動詞 自分を幸せにするもの／ことについてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 列挙する表現, 比較を表す構文	
7	Part II Unit 2 Does Technology Make Our Lives Better?	4	科学技術と生活についてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 例をあげる表現, 程度の差や変化を表す構文	
8	Part II Unit 3 My Personal History	4	自分自身のこれまでの振り返るパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 順序立てて述べる表現, 時を表す構文	
9	Part II Unit 4 City? or Country? (前期期末試験)	4 1	都会と田舎のどちらに住むべきかについてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 対比・対照する表現, 類似を示す表現, 譲歩を表す構文	
10	Part II Unit 5 Environmental Problems	6	環境問題とその解決策についてのパラグラフを書くことができる。 [言語材料] 結果を導く表現, 原因を述べる表現, 目的を表す構文	
11	Part III Unit 1 One Small Action (後期中間試験)	8 1	社会をより良くするための行動について述べることができる。 [言語材料] 話題を切り出す表現, 関心を引く表現, 次の話題に移る表現	
12 1 2	Part III Unit 2 Creating Something New in Empty Spaces Part III Unit 3 Making Your Hometown Special (後期期末試験)	8 8 1	既習のさまざまな表現を用いて、空きスペースの有効な活用法について述べるができる。 地元や住んでいる地域のまちづくりについて述べるができる。 [言語材料] 議論を進行する表現, 発言を促す表現, 意見をまとめる表現	
合計時数		65		

No.

2023 年度 情報 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	情報 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年 一般コース文系
使用教材	高等学校 情報 I (数研出版) ケーススタディ情報モラルAdvance						

目 標	効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに, 情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 情報と情報技術を適切に活用するとともに, 情報社会に主体的に参画する態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し, 技能を身に付けているとともに, 情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら, 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し, 自ら評価し改善しようとしている。
	ステップ 2 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し, 技能を身に付けている。	事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとし, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を用いることができる。	問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し, 自ら評価し改善しようとしている。
	ステップ 1 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し, 技能を身に付けるために努力している。	問題の発見・解決に関して, 情報と情報技術を用いることができる。	問題の発見・解決に関して, 情報と情報技術を活用することができる。
評価方法	小テスト 定期試験 授業時の取り組み	課題作成 定期試験 レポート 定期試験	課題への取り組み プレゼンテーション レポート 定期試験

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

前半はおもに教科書の説明やそれに伴う演習を、後半は実技を伴う演習を行う予定です。
授業の内容に応じグループワークやプレゼンテーション、パソコン教室のPCやchromebookをもちいた授業をとりいれます。
もので提出するばかりでなく、サーバへ保存する形の提出や、様々な小テストを行い進めていきます。

担当者より

「情報」の授業はモラルや法律的な内容や、情報システム、プログラミング、プレゼンテーションといった、幅広い内容を扱います。また、1年次の数学で学んだ内容や、「総合的な探究の時間」の課題研究に関わったりと、教科を超えた連携があります。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4 5 6	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア	14 4	・様々なメディアの特徴や、情報の適切な表現形式について理解させる。 ・問題解決の目的や状況に応じて、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えさせる。	
	第2章 情報社会における法とセキュリティ	7	・情報社会でよりよく生きるために、情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラルにもとづいた行動について理解させる。 ・個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的、内容について理解させる。	
	第3章 情報技術が社会に及ぼす影響	3	・著作権などの知的財産権の保護の必要性とともに、そのために必要な法規及び個人の責任について理解させる。 ・情報社会の問題点をふまえ、情報セキュリティの重要性を理解させるとともに、ユーザ認証やアクセス制御などの技術、セキュリティ対策の方法を理解させる。 ・情報社会において個人の果たす役割や責任について考えさせる。 ・発展する情報技術と情報技術がもたらす社会の変化や経済の効率化について理解させる。 ・情報格差、インターネット依存症、インターネット上のトラブルなどを学び、情報技術の適切な活用について理解させる。 ・情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えさせる。	
	第2編 コミュニケーションと情報デザイン	16		
7 8 9	第1章 情報のデジタル表現	6	・アナログとデジタルのちがいとデジタル情報の特徴を理解させる。 ・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進法による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解させる。 ・デジタル情報のデータ圧縮の原理と具体例について理解させる。	
	第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴	3	・古代からの技術的な進歩やコンピュータを使った通信の歴史を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解させる。 ・情報伝達のメディアの性質を科学的に理解させるとともに、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を身に付けさせる。	
	第3章 情報デザイン	3	・情報を抽象化・構造化・可視化する方法を身に付けさせる。 ・情報を伝える目的や受け手の状況をふまえた適切かつ効果的な情報デザインを考えさせるとともに、それらを表現し、評価し改善する活動を行わせる。 ・ユーザビリティやアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン等について、身近な具体例を挙げながら理解させる。	
	第4章 プレゼンテーション	4	・コミュニケーション手段の1つとして用いられているプレゼンテーションの基本、重要性、手法を理解させるとともに、情報デザインの考え方や方法を表現する技能を身に付けさせる。 ・効果的なコミュニケーションを行うために、プレゼンテーションの注意点、プレゼンテーションソフトウェアの上手な使い方を身に付けさせるとともに、プレゼンテーションを実施し、評価し改善する活動を行わせる。	
10 11	第3編 コンピュータとプログラミング	14		
	第1章 コンピュータのしくみ	4	・コンピュータや外部装置の基本的なしくみや特徴を理解させる。 ・OSやアプリケーションプログラムなどのソフトウェアの基本的な機能を理解させる。 ・コンピュータの内部における情報の表現方法と計算に関する限界について理解させる。 ・コンピュータで扱われる数や情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考えさせる。	
	第2章 プログラミング	6	・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付けさせる。 ・プログラミング言語の実行のしくみやプログラミングの基本を理解させるとともに、プログラミングによってコンピュータを活用する方法を身に付けさせる。 ・アルゴリズムを考え、プログラミングを行う過程において、それらを評価し改善していく力を身に付けさせる。	
	第3章 モデル化とシミュレーション	4	・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させるとともに、社会や自然などにおける事象をモデル化する方法や、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解させる。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果をふまえて問題を適切に解決する方法を考えさせる。	
12 1 2	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用	16		
	第1章 ネットワークのしくみ	7	・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解させる。 ・通信の信頼性や情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解させる。 ・目的や状況に応じて、情報通信ネットワークの方式やプロトコルを選択したり、情報セキュリティを確保したりする方法について考えさせる。	
	第2章 データベース	3	・データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解させる。 ・データベースが活用されている情報システムについて、それらがサービスを提供するしくみや特徴、社会生活に果たす役割と影響を理解させるとともに、サービスの効果的な活用について考えさせる。	
	第3章 データの分析	6	・データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解させる。 ・表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行う方法を身に付けさせる。 ・データの収集、整理、分析の方法や、その結果を表す方法を適切に選択させるとともに、それらについて評価し改善する力を身に付けさせる。	
合計時数		60		

No.

2023 年度 情報 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	情報 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年 一般コース理系
使用教材	高等学校 情報 I (数研出版) ケーススタディ情報モラルAdvance						

目 標	効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに, 情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 情報と情報技術を適切に活用するとともに, 情報社会に主体的に参画する態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
↑ 評価規準	ステップ 3 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し, 技能を身に付けているとともに, 情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら, 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し, 自ら評価し改善しようとしている。
	ステップ 2 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し, 技能を身に付けている。	事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとし, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を用いることができる。	問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し, 自ら評価し改善しようとしている。
	ステップ 1 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し, 技能を身に付けるために努力している。	問題の発見・解決に関して, 情報と情報技術を用いることができる。	問題の発見・解決に関して, 情報と情報技術を活用することができる。
評価方法	小テスト 定期試験 授業時の取り組み	課題作成 定期試験 レポート 定期試験	課題への取り組み プレゼンテーション レポート 定期試験

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

前半はおもに教科書の説明やそれに伴う演習を、後半は実技を伴う演習を行う予定です。
授業の内容に応じグループワークやプレゼンテーション、パソコン教室のPCやchromebookをもちいた授業をとりいれます。
もので提出するばかりでなく、サーバへ保存する形の提出や、様々な小テストを行い進めていきます。

担当者より

「情報」の授業はモラルや法律的な内容や、情報システム、プログラミング、プレゼンテーションといった、幅広い内容を扱います。また、1年次の数学で学んだ内容や、「総合的な探究の時間」の課題研究に関わったりと、教科を超えた連携があります。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4 5 6	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア	14 4	・様々なメディアの特徴や、情報の適切な表現形式について理解させる。 ・問題解決の目的や状況に応じて、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えさせる。	
	第2章 情報社会における法とセキュリティ	7	・情報社会でよりよく生きるために、情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラルにもとづいた行動について理解させる。 ・個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的、内容について理解させる。	
	第3章 情報技術が社会に及ぼす影響	3	・著作権などの知的財産権の保護の必要性とともに、そのために必要な法規及び個人の責任について理解させる。 ・情報社会の問題点をふまえ、情報セキュリティの重要性を理解させるとともに、ユーザ認証やアクセス制御などの技術、セキュリティ対策の方法を理解させる。 ・情報社会において個人の果たす役割や責任について考えさせる。 ・発展する情報技術と情報技術がもたらす社会の変化や経済の効率化について理解させる。 ・情報格差、インターネット依存症、インターネット上のトラブルなどを学び、情報技術の適切な活用について理解させる。 ・情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えさせる。	
	第2編 コミュニケーションと情報デザイン	16		
7 8 9	第1章 情報のデジタル表現	6	・アナログとデジタルのちがいとデジタル情報の特徴を理解させる。 ・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進法による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解させる。 ・デジタル情報のデータ圧縮の原理と具体例について理解させる。	
	第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴	3	・古代からの技術的な進歩やコンピュータを使った通信の歴史を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解させる。 ・情報伝達のメディアの性質を科学的に理解させるとともに、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を身に付けさせる。	
	第3章 情報デザイン	3	・情報を抽象化・構造化・可視化する方法を身に付けさせる。 ・情報を伝える目的や受け手の状況をふまえた適切かつ効果的な情報デザインを考えさせるとともに、それらを表現し、評価し改善する活動を行わせる。 ・ユーザビリティやアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン等について、身近な具体例を挙げながら理解させる。	
	第4章 プレゼンテーション	4	・コミュニケーション手段の1つとして用いられているプレゼンテーションの基本、重要性、手法を理解させるとともに、情報デザインの考え方や方法を表現する技能を身に付けさせる。 ・効果的なコミュニケーションを行うために、プレゼンテーションの注意点、プレゼンテーションソフトウェアの上手な使い方を身に付けさせるとともに、プレゼンテーションを実施し、評価し改善する活動を行わせる。	
10 11	第3編 コンピュータとプログラミング	14		
	第1章 コンピュータのしくみ	4	・コンピュータや外部装置の基本的なしくみや特徴を理解させる。 ・OSやアプリケーションプログラムなどのソフトウェアの基本的な機能を理解させる。 ・コンピュータの内部における情報の表現方法と計算に関する限界について理解させる。 ・コンピュータで扱われる数や情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考えさせる。	
	第2章 プログラミング	6	・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付けさせる。 ・プログラミング言語の実行のしくみやプログラミングの基本を理解させるとともに、プログラミングによってコンピュータを活用する方法を身に付けさせる。 ・アルゴリズムを考え、プログラミングを行う過程において、それらを評価し改善していく力を身に付けさせる。	
	第3章 モデル化とシミュレーション	4	・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させるとともに、社会や自然などにおける事象をモデル化する方法や、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解させる。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果をふまえて問題を適切に解決する方法を考えさせる。	
12 1 2	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用	16		
	第1章 ネットワークのしくみ	7	・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解させる。 ・通信の信頼性や情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解させる。 ・目的や状況に応じて、情報通信ネットワークの方式やプロトコルを選択したり、情報セキュリティを確保したりする方法について考えさせる。	
	第2章 データベース	3	・データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解させる。 ・データベースが活用されている情報システムについて、それらがサービスを提供するしくみや特徴、社会生活に果たす役割と影響を理解させるとともに、サービスの効果的な活用について考えさせる。	
	第3章 データの分析	6	・データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解させる。 ・表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行う方法を身に付けさせる。 ・データの収集、整理、分析の方法や、その結果を表す方法を適切に選択させるとともに、それらについて評価し改善する力を身に付けさせる。	
合計時数		60		

No.

2023 年度 情報 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	情報 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年 探究コース文系
使用教材	高等学校 情報 I（数研出版） ケーススタディ情報モラルAdvance						

目 標	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
	ステップ 2 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けている。	事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとし、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を用いることができる。	問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
	ステップ 1 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けるために努力している。	問題の発見・解決に関して、情報と情報技術を用いることができる。	問題の発見・解決に関して、情報と情報技術を活用することができる。
評価方法	小テスト 定期試験 授業時の取り組み	課題作成 定期試験 レポート 定期試験	課題への取り組み プレゼンテーション レポート 定期試験

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

前半はおもに教科書の説明やそれに伴う演習を、後半は実技を伴う演習を行う予定です。
授業の内容に応じグループワークやプレゼンテーション、パソコン教室のPCやchromebookをもちいた授業をとりいれます。
もので提出するばかりでなく、サーバへ保存する形の提出や、様々な小テストを行い進めていきます。
(探究コース理系・探究コース文系 は合同で授業を行います)

担当者より

「情報」の授業はモラルや法律的な内容や、情報システム、プログラミング、プレゼンテーションといった、幅広い内容を扱います。また、1年次の数学で学んだ内容や、「総合的な探究の時間」の課題研究に関わったりと、教科を超えた連携があります。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア	4	・様々なメディアの特徴や、情報の適切な表現形式について理解させる。 ・問題解決の目的や状況に応じて、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えさせる。	
5	第2章 情報社会における法とセキュリティ	7	・情報社会でよりよく生きるために、情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラルにもとづいた行動について理解させる。 ・個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的、内容について理解させる。	
6	第3章 情報技術が社会に及ぼす影響	3	・著作権などの知的財産権の保護の必要性とともに、そのために必要な法規及び個人の責任について理解させる。 ・情報社会の問題点をふまえ、情報セキュリティの重要性を理解させるとともに、ユーザ認証やアクセス制御などの技術、セキュリティ対策の方法を理解させる。 ・情報社会において個人の果たす役割や責任について考えさせる。 ・発展する情報技術と情報技術がもたらす社会の変化や経済の効率化について理解させる。 ・情報格差、インターネット依存症、インターネット上のトラブルなどを学び、情報技術の適切な活用について理解させる。 ・情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えさせる。	
7	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現	6	・アナログとデジタルのちがいとデジタル情報の特徴を理解させる。 ・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進法による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解させる。 ・デジタル情報のデータ圧縮の原理と具体例について理解させる。	
8	第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴	3	・古代からの技術的な進歩やコンピュータを使った通信の歴史を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解させる。 ・情報伝達のメディアの性質を科学的に理解させるとともに、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を身に付けさせる。	
9	第3章 情報デザイン	3	・情報を抽象化・構造化・可視化する方法を身に付けさせる。 ・情報を伝える目的や受け手の状況をふまえた適切かつ効果的な情報デザインを考えさせるとともに、それらを表現し、評価し改善する活動を行わせる。	
9	第4章 プレゼンテーション	4	・ユーザビリティやアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン等について、身近な具体例を挙げながら理解させる。 ・コミュニケーション手段の1つとして用いられているプレゼンテーションの基本、重要性、手法を理解させるとともに、情報デザインの考え方や方法を表現する技能を身に付けさせる。 ・効果的なコミュニケーションを行うために、プレゼンテーションの注意点、プレゼンテーションソフトウェアの上手な使い方を身に付けさせるとともに、プレゼンテーションを実施し、評価し改善する活動を行わせる。	
10	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ	4	・コンピュータや外部装置の基本的なしくみや特徴を理解させる。 ・OSやアプリケーションプログラムなどのソフトウェアの基本的な機能を理解させる。 ・コンピュータの内部における情報の表現方法と計算に関する限界について理解させる。 ・コンピュータで扱われる数や情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考えさせる。	
11	第2章 プログラミング	6	・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付けさせる。 ・プログラミング言語の実行のしくみやプログラミングの基本を理解させるとともに、プログラミングによってコンピュータを活用する方法を身に付けさせる。 ・アルゴリズムを考え、プログラミングを行う過程において、それらを評価し改善していく力を身に付けさせる。	
11	第3章 モデル化とシミュレーション	4	・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させるとともに、社会や自然などにおける事象をモデル化する方法や、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解させる。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果をふまえて問題を適切に解決する方法を考えさせる。	
12	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ	7	・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解させる。 ・通信の信頼性や情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解させる。 ・目的や状況に応じて、情報通信ネットワークの方式やプロトコルを選択したり、情報セキュリティを確保したりする方法について考えさせる。	
1	第2章 データベース	3	・データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解させる。 ・データベースが活用されている情報システムについて、それらがサービスを提供するしくみや特徴、社会生活に果たす役割と影響を理解させるとともに、サービスの効果的な活用について考えさせる。	
2	第3章 データの分析	6	・データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解させる。 ・表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行う方法を身に付けさせる。 ・データの収集、整理、分析の方法や、その結果を表す方法を適切に選択させるとともに、それらについて評価し改善する力を身に付けさせる。	
合計時数		60		

No.

2023 年度 情報 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	情報 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	2年 探究コース理系
使用教材	高等学校 情報 I (数研出版) ケーススタディ情報モラルAdvance						

目 標	効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに, 情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 情報と情報技術を適切に活用するとともに, 情報社会に主体的に参画する態度を養う。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
↑ 評価規準	ステップ 3 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し, 技能を身に付けているとともに, 情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら, 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し, 自ら評価し改善しようとしている。
	ステップ 2 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し, 技能を身に付けている。	事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとし, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を用いることができる。	問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し, 自ら評価し改善しようとしている。
	ステップ 1 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し, 技能を身に付けるために努力している。	問題の発見・解決に関して, 情報と情報技術を用いることができる。	問題の発見・解決に関して, 情報と情報技術を活用することができる。
評価方法	小テスト 定期試験 授業時の取り組み	課題作成 定期試験 レポート 定期試験	課題への取り組み プレゼンテーション レポート 定期試験

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

前半はおもに教科書の説明やそれに伴う演習を、後半は実技を伴う演習を行う予定です。
授業の内容に応じグループワークやプレゼンテーション、パソコン教室のPCやchromebookをもちいた授業をとりいれます。
もので提出するばかりでなく、サーバへ保存する形の提出や、様々な小テストを行い進めていきます。
(探究コース理系・探究コース文系 は合同で授業を行います)

担当者より

「情報」の授業はモラルや法律的な内容や、情報システム、プログラミング、プレゼンテーションといった、幅広い内容を扱います。また、1年次の数学で学んだ内容や、「総合的な探究の時間」の課題研究に関わったりと、教科を超えた連携があります。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア	4	・様々なメディアの特徴や、情報の適切な表現形式について理解させる。 ・問題解決の目的や状況に応じて、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えさせる。	
5	第2章 情報社会における法とセキュリティ	7	・情報社会でよりよく生きるために、情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラルにもとづいた行動について理解させる。 ・個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的、内容について理解させる。	
6	第3章 情報技術が社会に及ぼす影響	3	・著作権などの知的財産権の保護の必要性とともに、そのために必要な法規及び個人の責任について理解させる。 ・情報社会の問題点をふまえ、情報セキュリティの重要性を理解させるとともに、ユーザ認証やアクセス制御などの技術、セキュリティ対策の方法を理解させる。 ・情報社会において個人の果たす役割や責任について考えさせる。 ・発展する情報技術と情報技術がもたらす社会の変化や経済の効率化について理解させる。 ・情報格差、インターネット依存症、インターネット上のトラブルなどを学び、情報技術の適切な活用について理解させる。 ・情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えさせる。	
7	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現	6	・アナログとデジタルのちがいとデジタル情報の特徴を理解させる。 ・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進法による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解させる。 ・デジタル情報のデータ圧縮の原理と具体例について理解させる。	
8	第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴	3	・古代からの技術的な進歩やコンピュータを使った通信の歴史を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解させる。 ・情報伝達のメディアの性質を科学的に理解させるとともに、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を身に付けさせる。	
9	第3章 情報デザイン	3	・情報を抽象化・構造化・可視化する方法を身に付けさせる。 ・情報を伝える目的や受け手の状況をふまえた適切かつ効果的な情報デザインを考えさせるとともに、それらを表現し、評価し改善する活動を行わせる。	
9	第4章 プレゼンテーション	4	・ユーザビリティやアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン等について、身近な具体例を挙げながら理解させる。 ・コミュニケーション手段の1つとして用いられているプレゼンテーションの基本、重要性、手法を理解させるとともに、情報デザインの考え方や方法を表現する技能を身に付けさせる。 ・効果的なコミュニケーションを行うために、プレゼンテーションの注意点、プレゼンテーションソフトウェアの上手な使い方を身に付けさせるとともに、プレゼンテーションを実施し、評価し改善する活動を行わせる。	
10	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ	4	・コンピュータや外部装置の基本的なしくみや特徴を理解させる。 ・OSやアプリケーションプログラムなどのソフトウェアの基本的な機能を理解させる。 ・コンピュータの内部における情報の表現方法と計算に関する限界について理解させる。 ・コンピュータで扱われる数や情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考えさせる。	
11	第2章 プログラミング	6	・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付けさせる。 ・プログラミング言語の実行のしくみやプログラミングの基本を理解させるとともに、プログラミングによってコンピュータを活用する方法を身に付けさせる。 ・アルゴリズムを考え、プログラミングを行う過程において、それらを評価し改善していく力を身に付けさせる。	
11	第3章 モデル化とシミュレーション	4	・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させるとともに、社会や自然などにおける事象をモデル化する方法や、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解させる。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果をふまえて問題を適切に解決する方法を考えさせる。	
12	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ	7	・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解させる。 ・通信の信頼性や情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解させる。 ・目的や状況に応じて、情報通信ネットワークの方式やプロトコルを選択したり、情報セキュリティを確保したりする方法について考えさせる。	
1	第2章 データベース	3	・データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解させる。 ・データベースが活用されている情報システムについて、それらがサービスを提供するしくみや特徴、社会生活に果たす役割と影響を理解させるとともに、サービスの効果的な活用について考えさせる。	
2	第3章 データの分析	6	・データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解させる。 ・表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行う方法を身に付けさせる。 ・データの収集、整理、分析の方法や、その結果を表す方法を適切に選択させるとともに、それらについて評価し改善する力を身に付けさせる。	
合計時数		60		